

幼兒の教育

家庭・保育所・幼稚園

第五十三卷 第三號



日本幼稚園協會

3

最新刊 楽しく遊ばせながら知能を伸ばす
美しい繪本テストノイよいよ発売

幼児知能検査繪本

文學博士 武政太郎 共著 全5巻
文學士 岡本奎六 指導書付自由分売
各巻価一八〇円

- 第一・二巻 よい子のちえ 知能検査と
知能の伸し方
- 第三巻 よい子のかず 数能力の検査
と数の教え方
- 第四巻 よい子のことば 言語の検査と
言葉の教え方
- 第五巻 よい子の生活 社会的検査
と躰のし方

九州大学教授 牛島義友 監修
お茶の水大学教授 平井信義
お茶の水大 松村康平 編
お茶の水大 水原泰介 共
お茶の水大 水原泰介 共
同附属幼稚園園長 及川ふみ 監

幼児保育の知識

幼児教育の最新の原理と実際上の諸問題を凡ゆる面から親切に説明! 一般家庭、幼稚園、保育所、保育科生徒の必読必備の保育事典。

絶賛発売中 A5判美装函入 価三三〇円

東京都文京区 金子書房 振替口座東京 一〇三三七六
小石川区内

うたとあそび B5判上製
定価三二〇円
千 四八円

ラジオでもお馴染の楽しいうたを、著者独特の美しくおもしろい振付けをし、これを教材として春夏秋冬の四季に分類配列したもの。挿絵と、直ぐ役立つ楽譜を豊富に収めてあり、幼稚園、小学校低学年用の教材として好適のもの、全国諸先生方の好評の中に、第六版発売中。

ハンドカスタのゆうぎ B5判上製
定価三〇〇円
千 四八円

ハンドカスタをつかってする楽しいおゆうぎのしかたを楽譜付でくわしく説明したもの。けだし、ハンドカスタを使ってするあそびの独創的なもの。

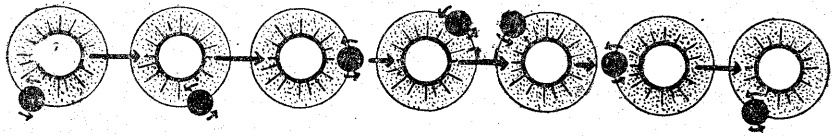
戸倉ハル・小林つや江 両先生著

「ベビー・ハンドカスタ」も発売中

日本リズム運動協会著
運動とリズム B6判一〇〇頁
一〇〇円千三円

邦正美氏を中心に問答形式により、リズムと運動について説明する。

株式会社 不味堂書店
発行所 東京都文京区大塚仲町二
電話(94)二七〇三・〇九九二
振替東京六八七三九



幼児の教育 目次 第五十三巻 第三号

表紙……………猪熊弦一郎

帰つて来ての第一頁(ヌース)……………斎藤文雄 2

和田実先生を悼む……………4

集—— 新入園児を迎える……………竹中京子 6

—— その抱負 ——……………高森豊 9

——……………遠藤孝子 13

▼▼▼ 大阪府私立幼稚園連盟創立二十年を回顧して……………佐藤富子 18

倉橋先生をお迎えして……………中西ヒサノ 20

座談会 戸倉先生をむかえて……………22

講座 知能テストについて……………小口忠彦 31

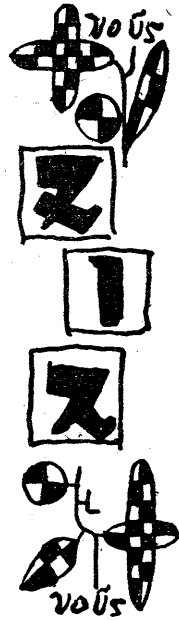
幼稚園の今昔(福島県)……………玉川喜代子 38

「小人の汽車」の作者は語る……………中島研六 43

フレイベル館の廿九年度新学期用品……………49

編	集	主	幹	倉	橋	惣	三							
協	力	委	員	牛	島	義	友	及	川	ふ	み	齊	藤	文
編	集	委	員	多	田	鉄	雄	波	多	野	完	山	下	俊
				西	山	浪	太							郎
														(五十音順)

発行 日本幼稚園協会



歸つて來ての第一頁

齋藤文雄

赤ちゃんを乗せた乳母車に手をかけて母親がバスを待っている。バスが來た。停つたと思つたら、運転手が車から降りて來る。母親が赤ちゃんを抱きあげてバスに乗りこむと、運転手は車体の後ろのつり鉤に乳母車をつるして、さてそれから料金をひとり／＼のお客から貰つて走り出す。母親の降りたい停車場にくると、運転手が乳母車をおろして母親に御手伝いをする。こんなことが極めて当り前の態度で自然に行われてゆく。

これはニュージーランドの都会のどこにでも見られる風景である。金曜などになると、土曜日曜はこの商店も休みになるので、母親たちの買物のための外出も多いので、バスが二つも三つも乳母車をぶらさげて走っているのがみられる。バスばかりではない。電車でも同じような風景が展開される。電車が空いている時は乳母車にのつたまゝで、赤ちゃんが電車のお客様に

なっていることもある。見ていて気持ちのいいことおびたゞしい。ニュージーランドの乳児や幼児の死亡率が世界で一、二というよい成績をみせている原因のひとつが、こんなところに片鱗をみせている。赤ちゃんを持った母親は乳母車をおしたまゝで自分の用足しのできる範圍の距離を、バスで、電車で駆け廻ることが出来る。バスは車掌は乗っていないから、運転手がお金の計算もしなければならぬ。切符も渡さなければならぬ。それでも赤ちゃんの乳母車の世話はちゃんとやってくれる。乗る客も、運転手がそんな余分の仕事をしても、ほめるでもなし早く出せとどなるでもなし、当り前な顔つきだ。母親も当り前な顔つきでサンキュウこそいえ、平気で乗り降りしている。こんなことはとつくの昔から当り前のことがらになつてしまつていふといった感じだ。

そうかと思つと、小学校やハイスクールの退け時ごろのバスや電車がまた面白い。空いた坐席がある時は、バスや電車の坐席を占領している。それが停留場停留場で人が乗りこんで來て一杯になり、立つ人が出來ると、黙つてそつちの子が立つ。こつちの子が立つといつた工合で、大人に席を譲る。それを見ているといけばん低学年の子供が先に立ち上るようだ。席がつまつてくるに従つて、上級生が立つような順序になつていふ。これも、さっきの場合と同じように、いたつて当り前に行われ、譲られた大人もサンキュウだけで悠々と腰をおろす。

子供が小さい時はみんなで母子ともに護つてやる、小学校以上になるともう甘やかしてはおかない、お前達は訓練の時代じゃないかと聞えてくるような扱い方である。こんなことが当り

まえのことがらとして、毎日この都会でも行われているのだが、いったい何時どこでこんな社会的制約、社会的秩序が教えこまれてゆくのだろうか。

幼稚園の保姆が、当番の小学生が、時間が終って道路を横切つて帰る子供たちのために交通整理をやっている。ストップと書いた円板のついた白ぬりの棒一本で、すべての自動車や電車をびたりとめてしまう。ひとグループが渡り終るまで、車はおとなしくとまっており、ホーンを鳴らすこともしない。あくまで子供が中心で、電車も自動車も絶対服従だから面白い。車が通らない時をねらつて子供たちを向う側に渡してやるのとはちがう。堂々と子供が交通をとめているのである。

徹底した妊娠婦乳幼児の国家的社会的施設、そのひとつひとつをこゝで詳しく紹介するつもりはないが、それらの施設を完全に生かしているのは、それを監督する政府でもなければその施設の長でもない。おのずから築きあげられた社会人であり、社会秩序である。

幼稚園でも同じようなことがいえる。遊具と教材を豊かに備えて、カリキュラムのない自由教育だ。これはカリキュラムを作つて子供たちを遊ばせることより、保姆にかゝつてくる負担はずっと大きい。たえず子供の積極的なこゝろの動きにのつてひとりひとり誘導してゆかなければならないからである。決して保姆の数が多いわけではないうに、朗らかで楽しそうだ。体力の差というより、保姆の心の安定的に、無限の力を与えているように見える。これも結局、幼稚園がたゞ幼稚園の幹部と子供とその子の家庭という構成だけでなく、それを包んでいる一般社

会の大きな理解と支持があるからで、それが幼稚園の運営を物の上でも心でも豊かなものにしていくようだ。幼稚園は決して商売ではない、子供を伸すという純粹の使命に生きている。木当に筋金の通つた幼稚園という感じだ。

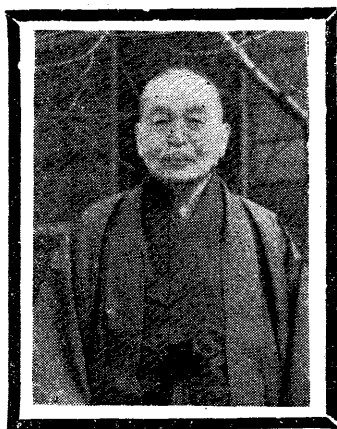
子供を護れということは吾国でも夙に叫ばれていることだけど、何だか押しつけがましい空念仏のような気がする。終戦後の数年は護れという子供は捨子、浮浪児などに限られたのも無理でない。しかし、もうそろそろ護れという子供の対象は日本中の子供であつてい、と思ふ。もっと欲をいうなら、何故護れという子供の上に母の字がつかないのか、母子を護れと何故いえないのかと思ふ。年一回お母さん有難うの空念仏の母の日だけで事がすむと思つたら間違いだ。

そんなことに話が進むと、すぐ予算がない、金がないから出来ないというに決つていく。そんなところには本当に金がないのだ。そして一方では、新聞社が競争してやたらに外国の音楽家を招いて、ごそつと日本の金を持つて行かせ、フランスのファツション・ショウの大家をよんだりするほどの馬鹿馬鹿しいお金が流れている。金が正當につかわれていない証拠だ。

足もとのぐらついている日本の経済で、こんなゆとりがあるうべくもない筈だ。もっと真剣に日本の将来をみつめてゆくべき大切な時なのにと腹も立つ。これというの智識だけが空廻りして日本人同志の心のふれあい、つまり人を尊重するといふ考え方が欠けているからだ。これが成長しなければ、いつまでも国だけが羨しくて人はお互いがみぢめな思いをしなければならぬ。

和田 実先生を悼む

日本幼稚園協会



(故 和田 実先生)

和田先生を悼みて

坂 内 ミ ツ

あゝ、和田先生は遂に此世をお去りになりました。先生はいつまでも御健在で保育界のために光を与えて下さるものばかり思つて居た私には、急に大きな光明を失つたような淋しさを感じます。先生とは幽明界を異にして直接お話いたすことは出来なくなりましたが、先生の残された御主張御意見は長く、私共を導いて下さることを信じて疑いません。先生はお茶の水幼稚園を振り出しに保育界に御活躍になりましたこと丁度五十年に及んで居ります。私はお茶の水を卒業しましてすぐ幼稚園に勤めました時から、先生と親しく致して居りますので、先生の御円満な御人格も御主張の意義もよく了解して居る

と思つて居ります。大正四年目白幼稚園を創設されました。こゝで幼稚園は實際子供の教育にあたる先生の保育にあたる精神、人格素養が最も大事であることを痛感され、幾多の犠牲を払つて保姆養成に当られたのであります。当時は二三の私立の養成機関があつたに過ぎず、当局も一向に関心を持って居られなかつたのであります。幼稚園は隆昌の氣運に進んで居りますのに先生がない。識者は大に憂いて居りますが、経営の上にも講師を得る点に於ても最も困難な養成の仕事に着手する方は無かつたのであります。その困難と戦い経営上の苦勞を忍び全く自力を以て今日まで貫徹されましたことは全く至誠の然らしむる所であり、御戒名を拝見した途端私は感にうたれたのであります。養成所にあつては幼児教育者としての素養は勿論幼児の成長發達の段階より見て、幼児は誘導すべし、指導すべきものでないとゆう根本原理を教えて下さいました。一方實際家となる先生は実習によつて子供の取扱ひ方、誘導の仕方を体得せねばならぬとして、奥様をはじめ一家総がかりで生徒を導いて下さいました。其温き零細氣と御一家を挙げての御指導とは卒業生を感激させない筈がありません。今日全国に亘つて数多の卒業生が幼児教育に従事し上京する度に先生に御目にかゝつて教を乞う卒業生のためにお忙はしい現状は、其辺の事情を雄弁に物語つて居ると思ひます。

幼稚園の重要性は迫々と認められ園の教も多くなりましたが、私立の幼稚園には何の統一もなく連絡もなく研究の機関もありませんでした。これを變うる人々が集り先生を会長に載き一切の御指図をいたゞいて、私立幼稚園聯盟をつくりました。私も役員の末に加わりあれこれと会合したものであります。其後時勢の変遷と共に若い人の活躍を期待すべき時としてバトンを渡されましたが、今日の東京私立幼稚園協会の（源）濳鵬は和田先生にあつたのであります。其後戦火に見舞われ一時疎開されましたが、幼児教育に対する熱意已み難く、目白幼稚園を復活されつゞいて東京教育専修学校として再発足養成に献身されました。冬期は健康の勝られぬ時もありましたため暫く沈黙を守つて御出になりました、処が翌年の春から論文をお書きになり、最近は二度も御主張を発表なさいました。數量に於ては空前の進歩を見せて居る幼稚園界も、一度目を内容設備保育の理想等に移す時、憂慮せずには居られぬものがあります。此時に先生の投石は大きな波紋を起すに真違ありません。尙先生の御逝去により再び先生の御主張について研究して下さる方が多くなり、幼稚園の眞の在り方について教えて下さる方がありましたら先生の靈も御喜びになることと、その事を祈つて止まないものであります。

（杉並ひまわり幼稚園長）



新入園児を迎える

—その抱負—

竹 中 京 子
高 森 豊
遠 藤 孝 子

新学年を迎えるに当って

—再建途上にある幼稚園の歩み—

竹 中 京 子

此の幼稚園に殆どその生涯を捧げられた坂内先生や、最後の時期を受けもたれた早塚先生の必死の努力にも拘らず、園舎の早期再建の見透しもつかぬまま、ついに休園の止むなきに至ったのであります。

民主国家として、再生する日本の数ある福祉政策のうち、政府の熱心な援助で、保育園の網が全国的に広まって行きました。

特殊な住宅区域の中に、住居を定めている方々によって、社団法人の事業として、昭和四年に創設された大和郷幼稚園は、理想的な私立幼稚園の一つとして、最も健全な発展を遂げてきたことは、容易に想像できます。

戦災は、山の手の住宅地帯にも遠慮なくもたらされて、評判の高かったこの幼稚園の園舎も、昭和二十年四月かい燻に帰してしまいました。

戦後の国民生活は、就学前の児童に対する保導の必要性を益々深め、幼稚園の必要が、子供を持つ殆ど全部の親にとり、身近かな問題となりました。

然しながら、六三制となった初、中級教育に対応する校舎の問題の解決が、程遠いものとなっておる現在、公立幼稚園の新設迄は、容易に進まない現状であります。

必然的に、私立幼稚園がさまざまな規模によって開設されました。公認を受けない、施設の不完全な幼稚園にも、父兄は競って大切な子供達を通わせているとも、いわれておりません。

此の間さきの両先生による大和郷幼稚園の再建運動は、絶えず続けられ、ついに大和郷会理事の方々の奔走によって、旧敷地の一部を売却した資金を基金として、及川ふみ先生を顧問に、又建設委員の方々に委嘱し、具体的な立案が進められたのであります。

建築費、二五八万円を以て、次のような園舎を新築し、昭和二十八年六月一日に再開することとなりました。

敷地面積	三八六坪一〇
構造	木造
園舎延坪数	八一坪一〇
保育室	一、一二坪
遊戯室	一、三五坪
使丁室	二坪二五
台所	二坪
廊下及玄関	二二坪八五
便所	八坪
収容園児は	
一年保育	四〇名

二年保育 五〇名
各自の負担額は

申込金 三〇〇円(会員 二〇〇円)
入園料 三、〇〇〇円(会員 二、〇〇〇円)
保育料 七〇〇円

外に

教材費 三〇〇円
施設費 二、〇〇〇円
愛育会費 一〇〇円

と定まりました。

幸に大和郷会の有志の寄附によって、ピアノ、電気蓄音器、スライド、映写機、その他の計器等も一通り揃い、又開園直後結成された父兄愛育会の熱心な後援によって、ジャンダルジム、滑り台、その他の遊具並に煖房設備として、軽油ストーブ、ガストーブ、煉炭ストーブ等も備えられるに至りました。こうして比較的僅かな施設費にも拘らず、開園早々としては保育に事欠かぬ状態となりました。

又愛育会については、園当事者に対する父兄達による無形の激励は、各種の行事に際する真剣な奉仕ぶり等に現れていて高く評価されるべきものであります。

扱て復活してから一年間の総結算もつけねばならない時期が来るのですが、現在保育室が一室しかないので、二年保育

は遊戯室に五五名を収容している関係や、入園希望者の増加等、園舎の増築の問題が緊急となつてきました。

幸い新しい世代の教諭に対する信頼も不動のものとなり、健全な歩みも約束されたので、理事会において増築問題がよりより協議され、正式に次の園舎の増築が実施されることとなりましたが、比較的短期間に

保育室 三室 休養室（日本間八畳）

廊下 計四十四坪

新学年に當つて、二年保育六〇名、一年保育若干名の新入園児を迎えることとなりますが、増築の予定三室を加えた四室に各三〇名ずつを収容した上、遊戯室は解放して、常時利用出来ることとなり、幼稚園のスペースとしてはほぼ理想の形となります。

新学年に際し各幼稚園とも共通の悩みをもつて、心労される問題は、家庭以外の生活に慣れていない幼児に、幼稚園生活に親ませて、進んで登園する意欲を涌かせることであります。これは幼児の育つた環境によつて各種各様の傾向を示しておるもので、幼児一人一人について注意深く観察して取扱わねばならぬ問題であります。地方に於て、幼稚園においては、集団的なしつけが行われてからこれを両立させる保育の実際は仲々容易なことではありません。

ある指導者は、新入園児は少し宛小人数に分割して、入園

させることを適當とするとも言つておられます。然しながらこれは実際問題として実施困難であります。いずれにしても、基礎的調査を充分に行つて、入園児の入園以前の環境や素質、性僻、健康等について資料を作成して置き、常時これを参考として、個性に応じた適当な指導を行う必要があるように思われます。私自身は既に多年に亘つて保育生活から離れていて、戦後十年振りで幼稚園へ戻りましたので、戦後に育つた方々に教えられるところが多く、又保育の実際に対する研究は、戦前に比較になりません程高度に進歩していると考えておりますので、今後勉強を続けなければ、新しい教諭の方々にもついてゆけない次第で、保育について、語ることは遠慮すべきであります。唯一つ、昔も今も変らぬ大原則があると思ひます。

それは家庭の空気から、始めて離れた幼児の社会的生活に対する芽生えを、正しく伸すことが幼稚園に課せられております。このことによつて両親も、特に幼稚園に対して期待をかけ、その膝下から喜んで離して愛児を登園させることができず。そして多少とも戦後に比し生活環境にゆとりが少なくなつた戦後の市民生活に於て、特に家庭では困難な集団生活のしつけを、幼稚園に期待されることになりました。

例えば音感教育一つとりあげて考えてみても、これが幼児

の個性や人格を育てあげるとともに、市民生活に入つた場合の、深い教養とつながっているものであります。

絵画を見る事によつて、私達の周囲にある形や、線や、色彩の美しさを自覚するに至ると同じように、音楽を楽しむことから、自然生活の上に溢れている旋律や、格調の正しいリズムや調和を感知することが出来ます。

然も音楽を楽しむ心は、幼児の立感教育によつて、容易に培うことができます。

音感教育は、少数の選ばれた素質をもつたものには、天才教育の一端になるかも知れませんが、殆ど大部分のものに対しては、市民生活における教養の根を植へつけることとなります。

リズム教育は決して学芸会用のショウを準備することではなくて、幼児の情操と、筋骨を正しく発達させる第一階梯であります。

すべてのしつけも、決して功利的な形式的なものではなく性格の中に社会性を植へつけて、そのまま大人の生活の中に伸ばされることのできる事が必要であります。

個性が強いといへば偏破なものに思ひ、社会性があるといへば、上滑りのことを考へるのは誤りで、偏つた特権意識ではなく、集団的な訓育によつて、絶えず向上する社会性を養うと共に、個人特有の、伸すべき長所は公正な判断を基礎と

して、できるだけ助長するということが、幼児保育の変らぬ原則でありまして、愛情にしても高度な技術にしても、すべてその原則に貫かれたものでなくてはならないと考へている次第であります。

(大和郷幼稚園)

入園時を前にして

高 森

豊



小さい胸をふくらまし、生れて初めての集団の生活にはいる子供達、限らない愛情の中、いとしい見へのお母様の嬉しい興奮、入園は実に可愛さにみち生氣に溢れ、希望に輝き、全く蘇る様な思ふする。年々変る社会情勢、入園の激増、園内職員構成に、最も能率的に、合理的に教育のスタートを切る入園、去る年を顧み本年を思ふと希望と緊張がみなぎる。

三月初旬入園募集、応募者への願書の配布、そして提出されたものを市立幼稚園共通の選考法をとる。只収容力と応募者のバランスがとれず、狭い門の變ある事は幼児教育者としての責任を思ふと共に、幼児教育伸展のため施設拡充に努力し、地域社会一般にひろく幼児教育の必要の切実な事を啓蒙

せねばならぬ。

入園前に予め子供及母親との面接をする。

先ず身体検査をして「病を園内に入れぬ」という事に努力する。小児の伝染病はもとよりトラホームの様なものは特に留意し、他に集団生活の出来ぬ様な身体障碍者はないかと、園医の診断を受ける。そして一時的な病気は之を入園迄の中に治療して全快の証明ある者だけ入園出来る様にする。

教師は子供に親しく接し、どんな気持の子供であるか、社会性はどうか、能力はどうか等その概観を掴むことに努力する。特に教師の言葉、態度等、親密感にあふれ、子供が安心した気持になつて欲しいと希う。

母と子供への面接は、親しみと共に教育への関心度等が察知され、今後にプラスする面が多い事を喜んでいる。殊に母子二人には、そこに切られぬつながりが見られ、幼児指導の鍵が発見される事がある。面接語り合い等によつて入園前に親しみを増し、入園直後の指導のより所を発見し、力強いスタートを切れるのは嬉しい事である。

入園許可の通知をすると共に母の会を開催する。当日は先ず幼稚園の教育方針並びに幼児教育の重大性と特に母の協力なくして大切な教育は不可能である事を強調し、母の強い協力を切望する。

仍ち幼稚園は子供を健康に、そして安全で災害から守り、

その大切な成長発達を助長する。気持が豊で常に朗かな子供であり、特に集団生活として、人に好かれる子供、物を共有する子供、自分の事は自分でやる子供、人に迷惑をかけぬ子供等、社会性の培につとめる。よい習慣をつくる子供、何でもよく工夫してする子供、こんな考のもとに成長発達の状態に即し常に一人々々の子供の観察をし、そのよい芽をのばし終始変らぬ目的のもとに繰り返し身につけさせる。

入園当初は異常な緊張をする事がある。何と言つても大きい建物・多人数の子供・教師・総ての幼児をとりまく環境が刺戟し興奮させる。この時母の殊更変つた要求は、余りにも子供に重みをかけることになる。幼い子供である。安心して楽しい幼稚園として行く気持をかもして欲しい。安らかな気持ちで喜び勇んで来る様にありたい。家で朝の一時、一寸した事でもこれを見とめて朗らかな気分が満たすのは、成長を願う母の眞の愛情である。認めてやろう、成長感をもたせよう。そしてのび／＼と豊かな気持に浸らせたい。

又集団生活の幼稚園は、特に公衆衛生については充分の話し合をとげる。「これで他人へ迷惑をかけないか」と考えて処理し合うこと。小児伝染病に犯された時、其他伝染性の病気等の場合必ず家で静養させること。もし登園してこれを発見した時は直に休園させる事等、厳しく約束する。手洗、口すゝぎ、歯みがき、排泄、睡眠等、衛生習慣も充分身につけさ

せたい。幼稚園との連絡は最も緊密を要するもので事の大小によらず連絡し、常に相通じて指導にあたりたい。お互いに大切な子供を育て行く使命の重く、又新しい事の希望を語り合う。この日は保育用品の展示をして、その使用の目的方法保管法等につき紹介して意見を交換する。家庭調査書も記入法につき相談し、教育指導にプラスする様に記入を依頼して入園前に提出させる。そして最後に各組別を示して各組の担任職員の紹介をする。

提出された家庭調査書と面接時記録主観等、お互いに話合つて一人々々の様子を親しく研究する。そして入園直後にそれらの指導法を考える。幼稚園環境の設営も充分に熟慮実行する。室内装飾・昇降口・下駄箱・傘棚等明るく落着いて童心にあふれた美しさ、子供が柔かで美しい雰囲気気持よくつゞまれる事こそ大切な事である。個人別に知らせる必要がある傘棚、下駄箱等、見分け易い絵と共に文字も一応書いて置くがよいと思う。

いよ／＼楽しい入園の日が来ると、母に、父に、祖母に伴われてその日おそしとやってくる。名札を胸に園庭に遊ぶ。清く掃き浄められた園庭に、可愛い童謡の声がきこえ、やがて軽快なメロデーが流れる。ブランコも、揺動橋も、雲梯もジャングルジムも、引車、低鉄棒、木馬、そして砂場、そして赤い目の兎、楽しい小鳥の囀り、鶏舎の鶏まで、このよい

日待っている。運動場も急に色めきわたり、来る日の躍動のひそみを思わせる。定められた各組の昇降口から式場に集める。そして子供達に用意された椅子に着席させる。喜んで腰かける子供、母と一っしょでなければいやだと云い張る子供、ぎこちなさそうにこしかけている子供、中には後向、横向、或は立ってこしかけぬ等、横紙破りも、二、三は見受けられる。自由にとにかく思うまゝに一応着席する。

可愛いムリズミカルな音楽が奏せられる。

「あら、お早うございます。坊ちゃん、嬢ちゃん、よくいらっしやいました。私は幼稚園の人形芝居に出る、花子ちゃんです。僕は太郎君です。今日から一っしょに仲よしになりましょう。あら政雄さん、ニコ／＼で元気ですねえ。あーら敏子ちゃん、可愛いすね。これから仲よく遊びましょうねえ」

二人の人形は喜んで退場する。

軽快なピアノに、幼稚園のリズム楽器一同出場して御挨拶をする。それ／＼音を出しては名をなめる。そして一同簡単なりズム合奏をする。

「皆なお友達さんばかり。明日から一人で元気にこれる方！ まあ、そんなに沢山いらっしやるなら先生達も早くお待ちしましょう。ハイ〇〇組の〇〇先生」と紹介する。

「あゝ、たれかのお声がきこえました。じゃおすきな歌を

うたいましよう」

こうして入園式はする／＼と手短かに終りを告げる。固苦しい顔のお話を了解して頂いて、心からの祝福を頂きたいと希望する。

幼稚園は子供を本体として、なごやかな雰囲気にはたせ楽しい一ときを終りたい。おみやげを手にして、伴われて帰り行く子供の、又の日の登園時を思い合せて、明日も又楽しく過してくれよと心から祈る。

昨日は幾分家人の束縛も思われたが、今日は自由に、園庭は千種万様の花にうずまる。

その一人々々を敏感に見とる事は、幼稚園教師の特技であり、責任である。「お早うございます」「あら元気で来ましたね」「敏子さんお早う」等、一人々々心から歓迎診断をする。顔色、まなざし、心の奥までみとりたいと努力する。

「お早うございます」と声も朗かに、辻台、ブランコ、揺動橋引車、砂場へと取り組む子供達、「先生、先生」とはしゃぐ子供、かとみると、しょんぼり立っている姿、「いらっしやい」「いや」と首を振る。こんな子供は見忘れぬ様、誘っては教師に、友に、遊具に親しむ機会をねらう。

教師にまつわりつく者よりじつとしている子供、はしゃぐ子供より黙っている子供。

寂し気なまなざし、怖えた様になっている子供、それ／＼適

応の処置をとる。泣く子供の気持の転換には、よく家庭調書から話材をとり、親しく語る内に親愛感をまし、心の安定をとりもどす。機敏に賢く各一人々々の環境的障碍を取りのぞき、心の安定を計らねばならぬ。泣き出す子供にはその前の寸刻がある筈である。その時を見落さず導くことが大切である。「揺って、揺って」とブランコから呼ぶ。幾度か背を押してやる。いつの間にか体の屈伸のこつを感じし一人で揺る事を喜ぶ。揺動橋のゆり方、体の重心の置き方、体験して初て一人々々発見するものである。砂場の山トンネル、辻台の辻方、ジャングルジムの登り方、又同様である。運動遊具はそれ／＼多少の危険は伴うが、教師の指導があれば子供はそれ／＼体験して、運動具使用の方法を知る。教師に、遊具に友に親しみを覚えて、初て心の落着を取りもどし、幼稚園に入園したという事実が実現する。

「お行儀よくならびましよう」の「この方のあとがあなたよ」等、今日初て相見る子供達の多い中、子供こそ迷惑千万である。

「かばんやお帽子はこゝにかけましょう。じゃまになるから」とかけさせる。や、と今日初め肩にかけ嬉しくてたまらぬであるものを、中には不安がって度々見に行く者もあり、いつの間にか身につけているものもある。かけねばならぬ必要も感じない者に、整理させるところに不安がある。子

供が遊ぶ時は必ず邪魔だと思ふ時がある。その時こそその整理を必要とする時であろう。並ばねば不便と感ずる。その機会を捉え、その方法を考える。幾度か幾度か繰り返しては、混とんとした中から、整然と並ぶ様になる。幾度か試み教師のよき援助で、自ら創案して並び方が案出される。急いではならぬ、子供はどこまでも具体的に自分で体験せねば納得出来ぬものである。どんな小さな事でも、体で感じ、手でさわり、初めてうなづけるのが子供である。誠に子供の教育は時間がかかり、面倒である幼児期こそ、一生の基盤を培う時である。

幼い子供の生命の激しさは、人生の足場をもとめ、根を張ろうと、真剣な闘をしている瞬間である。赤は赤に、白は白に、各人各様の様相の中に、創意創案の芽はのびて行く。

急いで大切な生命を失ってはならぬ。形に捉われて魂をぬかしてはならぬ。子供は言葉で学ぶのでなく、雰囲気や学ぶ者である。

私達は深い研鑽と、鋭い感覚をもち、周到な準備のもとにあたらねばならぬ。

素晴らしい成長力をもつ子供との取組は、果てしも無く続く。私達は人生としての生気と敏感さを失ってはならぬ。

(熊本市五福幼稚園長)

新入園児を迎えるに當って



遠藤孝子

○準備すること

近頃通勤の道すがら幼い子どもに呼びかけられたり、追いつがって足をとめられることがある。この子ども達には就学前期一ケ年の幼稚園教育をうける適令期に達したよろこびの表情がつまみきれないものゝようである。又ある子どもが柱にもたれて泣いているので、その子の母が、「どうしたの」ときくと、「うち、早よ、幼稚園へ行きたいのになかなかきになれへんわ」といつて悲しがっていたというのである。大方五才にならないと幼稚園には入れてもらえないとささとされているにちがいない。そこで、新入児を迎えるについては、先ず、

(一) 幼稚園を紹介する。

という仕事と考えられる。それには第一に幼稚園は一年で足りるというのでなく、せめて一年でもということに立ち至っている事情を説明しなければならぬ。又幼稚園志願者は認識をもっている人達ばかりとは限らないし、まだまだ近所

のお付き合いで願書を出したと思われるふしも伺えるので、「幼稚園はどんな所か」をわからせるために、幼稚園の年間行事や一日のカリキュラムの展開の様子を写真にしてまとめたり、幼稚園に協力するとはどういう風にするのかなのかについて、紙芝居にでもして見たい。そうして幼稚園の形式

や内容や経費についても納得が出来るように、パンフレットも用意しなければならぬ。又個々の幼稚園の経営や管理の状況のみでなく、此の土地のこの社会の教育の一貫性に於て幼稚園はどういう風に設置当局から管理をうけているかという説明をきく機会も用意しようと思つてゐる。幼稚園が設備や備品を改善しようと工夫したり、理想的にと努力するの一人々々のこの成長発達を目標として懸命になつてゐることで、常に前進的経営に思いをひそめてゐる大要を理解されるために、さゝやかなる研究物にしても提示したい心組みである。

(一) 保護者との申し合せをつくる。

という様なことは至極当然ありきたりのことだと思つて、短い一年間の保育を能率的にと意図する中の一工夫として、いろいろ用意したいと思つてゐる。それは例えば健康教育の面のれんらくについて拾つて見ると、赤色の紙片をもち帰らせた場合には「本日疲労の状態のまゝで帰らせませう」とか、黄色の紙片の場合には「今日は元気がありませんでした」と

いう風に了解し合える様に「うなづき合いでわかり合う」様なものを用意したいと思つてゐる。最初の集りの印象は強く残すもので、約束ごととは凡て一年の計をたてる上にもしつかりとしたものにしておきたい。非常時連絡事項なども特にそう考へてゐる。

(二) 諸用紙の印刷を調製する。

入園開始と共に事務的に処理しなければならぬ、統計や調査事項がある、法的に定められたもの以外に幼稚園として備えつきたい帳簿や用紙類の印刷など、管理企画上入園児を迎える迄に整備しなければならぬことである。

(三) 一環境の整備をする。

こどもの健康と生々しさを育むために春の自然界には格別の計画性がある。園庭の設計には花壇と共に素足の感触を楽しむ草原を用意したい。併しそれは入園児を迎える「今日になりて」思つても果せないことで、前年度のこどもがふみ荒して芽が出そうにもなかつたら、種子まきやら移植で補充の用意をしておかねばならない。又新入児の何よりものみ力と思われるものは運動具であるが、之には全身的な運動をもたらすものであるだけに、入念な点検をしなければならぬ。又動物飼育小屋、垣根等腐蝕や破損の修繕も見届けておかねばならない。

机、椅子、ガラス窓の破損修理はもちろん、保育具、保育

材料の補充取揃え、幼児所持品の置き場の整理は幼稚園生活に安定感をもたせる上からも大切なしごとである。室内装飾は敢て四月のことに限らないが、保育主題に関連して幼児の興味を誘うものをしつらえたいと思う。色彩、形状の点、配置についても保育の目標をみつめてかざりつける。

○保育についての注意

(一) 子供の氏名と顔を早く覚えること。

こどもを知ることの第一歩として、親しくなることが何よりも大切です。その第一歩としてその氏名と顔のれんらくを早くつける努力が大切、そうしてどのこどもにも平等に言葉をかけてやりたい。皆を一度に対象としてでなく、一人々々のこどもに話しかけてやると親密度が高まる。

(一) 指導は細心で行届いて全体をみつめて見落しがないうつにありたい。

腕白ものとか、よく泣くこどもとか、特徴のあるものに注意や努力が傾いて取り残すこどもがよくあるが、入園当初は先生を独専したいと思っっているのが多いので、ふと淋しからせてしまふと取り返すのに困る。

(一) 効をあせつてはならない。

終了児を送つた三月と、新入児との四月には一ヶ年のへだたりであるから、指導の手心には引き返しが必要だが「うっ

かり先生」には手加減に切り替えられていないのがある。その時には大概「よくわかりましたか」などという言葉を使っている。

(一) こどもに興味をもたせることの上手な教師は、相手の心理をよくつかんでいるが、単に興味にひたらせるものでなく目標を見失わないようにしなければならぬ。

(一) 創意創作の出来ない指導には生々しさが無い。しかし、一歌曲を取扱うにしても単に歌詞を覚えさせるに止まらず、談話、見学、しつけ、絵画、製作、リズム、劇など、生活や経験の様々の面に展開し、その間に社会性を培い、健康教育の目標を達成するという様に工夫があれば、相手をして活気のある豊かな生活者にすることが出来る。

(一) 「しつけは厳格に」は習慣形成の原則におきたい。これは入園当初からも行きたい方針である。運動具で遊ぶ上の規約という様なことも、園内の打合せで規準をつくつて守らせねばならない。他人にめいわくをかけない、そうして自分自身にとつても安全な生活を指導することは、そのまゝ社会人として道を歩かせることが出来るものである。

(一) けんかの仲裁は落ちついて

入園当初は特に感情の抑制のし難いこどもこどもで満ちている押し合い、顔のゆがめ合い、さてはつかみ合いも予想出来る。しかし、あわてふためいてひきわけるといふのでなく

むしろ、しばらく見物してよいと思う。それはけんかは
仲よしを体験する道程で「仲よくしましよ」といふ聞かせ
てもそれだけで仲よしの味は味えるものではない、存分にふ
んまんを發散させると、おのずから情緒も安定するというこ
とも知っていたい。又こどもの感情は本来至極あつさりして
いるものである。「こどものけんかに親出すな」とうたわれ
ているのにも一理があることを感じたい。

(一) 静かな境地を味わせる。

とかく元氣のあることゝ騒々しいことが混同されたり、静
かさと空虚が一つに考えられたり、自由と乱暴が間違えられ
たりする。こどもは眼の働きはしっているが、耳の働きを云
えるものは案外に少ない。「静かにする」ことによつて、観
る、聴く、考える、が可能である。一生を通じて大切な態度
は最初から学びとらせて行きたい。

(二) 「いや」というこどもについて。

いやというこえを氣まゝとばかりはうけとれない。はずか
しい、馬鹿らしい、面白くないからなど、その時の状態で原
因は様々だとは思ふが、多くの場合、そのこどもについての
指導が適正を欠いていたり、自由の領域がせまかつたりする
ことに自らを反省する必要がある。声に、表情に、身ぶりに
表現の活潑なこどもには、教え導かれることが多いものであ
る。

○のごむこと

一月号によせられた山村先生の御意見には、おそらく同志
の想いがつきていふと思う。実に幼稚園は教育施設であるか
ら、外観にも内容にも威厳を保ちたいものである。それには
新しい姿への歩調を合わせなければならぬ。低い伝統の
視野の中に佇んであきらめていたり、一人ぎめの習慣にひた
つていては迷惑になる。あく迄もこどもの幸福をねがつての
ことである。高い視野にたてば同志だけの語らい、結集の上
に宗教家、芸術家、政治家、実業家、評論家等々、社会の有
識をもとめ意見をきく雅量も大切である。幼稚園を幼稚の状
態にあらしめてはならない。正しく未来につらなる發展を期
するためには、保育の実際にも設備にも、教師にも投げかけ
られている問題は少くない。追いたてられたり、つかれてば
かりいるようでは、敬愛されるものにはなり難いと思う。

(塚市立幼稚園長)

訂正 本誌五十三巻第一号(一月号)、山村きよ先生の「年頭にあ
たって」中、二十一頁上段三行目「増設補助費として四五〇〇万
円」とあるのは、「四五〇万円」の誤植であります。おわび致
します。

幼稚園教員臨時養成課程入學募集要項

【昭和二十九年年度】

お茶の水女子大学

幼稚園教育の重要性にかんがみて左の要項によつて幼稚園教員の臨時養成を行う。

記

第一学年 約三十名
二年

- 一、募集人員
- 二、修業年限
- 三、入学資格

次のいずれかの資格を有する女子にして昭和二十九年年度進学適性検査を受けたものに限る。

1. 新制高等学校を卒業した者
2. 新制高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

四、出願手続 志願者は本大学に請求して『志願者名票』用紙を受けとり(郵送希望者は返信用封筒に切手を貼付同封すること)これに必要事項を記入の上左記の添付書類とともに検定料四百円を添え提出し、大学から『受験票』の交付をうけること。志願者名票を郵送するときは必ず書留郵便にすること。

1. 写真 真

半年以内に写したものの一枚。大きさは、手札型。(台紙は志願者名票とともに交付する。)

2. 調査書

調査書は志願者が出身学校へ依頼し出身学校長が文部省所定の様式により作製するものであつて、当該学校長から直接本大学に郵送されることになつてゐるので、その際名票その他をとりまとめて送付されると便利である。

3. 受験票送付用封筒

『受験票』の郵送を受けたときは、表面に自己の住所氏名を記載し、切手を貼付した封筒を『志願者名票』とともに送ること。名票の受理は『受験票』の届いたことで承知すること

4. 進学適性検査受験票

志願者は受験の際必ず昭和二十九年年度施行の『進学適性検査受験票』を携帯すること、なお『進学適性検査場名』および『受験番号』を『志願者名票』の欄内に記入すること。

- 五、出願期日 昭和二十九年三月一日から三月二十日まで

- 六、学力検査科目

国語 理科(生物) 図画 英語 音楽(声楽) 体音(実技)
七、検査期日および時間割

三月二十三日 午前九時—午後三時 国語・理科・図画・英語

三月二十四日 午前九時—午後三時 音楽・体育・身体検査

面接

三月二十五日 午前九時 身体検査

- 八、検査場所

東京都文京区大塚町三五 お茶の水女子大学
(都電 大塚窪町下車)

- 九、合格者発表

合格者氏名を三月二十八日、本大学に掲示する。

- 十、入学料

四〇〇円
授業料 年額六〇〇〇円 本大学に同じ。

- 十一、卒業の資格

幼稚園教諭の二級普通免許状を受けることができる。
東京都文京区大塚町三五 お茶の水女子大学学部事務室

大阪府私立幼稚園連盟

創立二十周年を回顧して

佐藤富子

こゝに掲載させて戴きましたものは、昨春秋、大阪帝塚山学院において、大阪府私立幼稚園連盟創立二十周年記念式典が挙行せられました際、連盟理事の佐藤富子先生より「創立二十周年を回顧して」と題して話されたものです。

——編集部——

今日本連盟が二十周年を迎えるに当りまして其の間の思い出を此の私に話せとの御指名を戴き、身に余る光栄に存る次第で御座います。

春風秋雨二十年と云う長期間の思い出はあれこれ胸中を去来致しますが、さて何からお話申上てよろしいやら其撰択順序等誠に當を得ない節も御座いますし、和田先生のお話と重複する向もあるうと守じますが、大様にお聞き取り願ひとう御座います。

先づ連盟結成の事で御座います。が、当時公立幼稚園ではあの大阪市各区には区保育会が組織され、更に市には市保育会が結成されてあつて相互に提携して幼児教育の各般に渡つて研究討議を進めると云う機構を持つていたので御座います。之に引換え私共私立幼稚園では何等連絡機関とてありません。各自に孤立の存在である事は何としても時世に遅れたものとして、極めて遺憾に考へていたので御座います。其れがようやくにして

昭和九年の五、六月頃、平素御呢懇に願つてゐる方、又は同感の人達が三越の会議室に集つて発企相談を致しましたが時運の然らしめる処順調に話が纏まり、纏ての事に其年の十月今日浪華の地に由緒深い高津神社で新調の会旗の下にいと厳かに結成式を挙げ得たので御座います。其の時の感激は今もなお忘れる事の出来ないものが御座います。尙之に加盟の幼稚園は僅かに十五を数えるばかりで御座いましたが、来賓としてお出で頂きました時の女子師範学校長仁科先生から一同に対する激励のお言葉を頂いて意を強うした事で御座いました。そして最初の理事長には年長者であられる八幡屋幼稚園理事の井沢先生が推薦をお受けになり、爾來戦争疎開に至る迄の十ヶ年の長期に亘り本連盟に対して懸命の御盡力を戴きました。

又副理事長に御就任になつた現理事長の和田先生が誠心誠意を以てよく補佐の任を完うせられ、なお当時常任理事でいられた海辺の幼稚園の海野先生、上ノ芝幼稚園長の唐谷先生など良く力を合せて連盟の各面に対し御協力御援助を給りました事など、其のお蔭に依りまして本連盟今日の基礎が築かれたものと信じ、深く謝意を表するもので御座います。其の功労者の先生方お揃いで此の席にお迎え出来なかつた事は返すべくも残念に存じます。

借本連盟の最初に手を着けました仕事は先生達の再教育とも申すべき実地保育の研究並に指導の面で御座いましたが、之が指導者には連盟に席をお持ちになる園長さん其他先生達の中で適材を得られますので、それ〴〵講師にお願い申し上た事で御座居ります。即ち遊戯に就て申し上ますなら、此道に練達遊ばす立正幼稚園長の箕島先生、諏訪の森幼稚園の村井先生が陣頭にお立ち下さつていと熱心に御指導を続けて下さつた事など其の一例で御座います。斯様にして居る間に自ら和築親密の雰囲気醸成されるにつれ、纏ての

事に連合運動会が催され更には又自然観察の指導講習を兼ねた遠足が行われ、其他毎月必ず一回の保育研究会を続行する等連盟の事業が着々発展を遂げた事で御座います。惜又本日の記念式に一段の光彩をお添え下さった倉橋先生と本連盟のつながりの一端を申述べさせて頂きます。

申す迄も無く倉橋先生は我國での幼児教育の權威として令名遍きお方であらせられますが、特に本連盟にとりましては育ての親とも申すべき御恩の深い先生で御座います。定めし先生におかせられてもそう云うお気持ちでおいで戴くものと拝察致されます。そうなればこそ遠く東京からわざわざ御臨席を賜つたものと確信致す次第で御座います。殊に御家族の道中をお案じなさる事から奥様御同道でお出掛け戴いた事は何とも有難く又恐れ入る處で御座います。

顧みますれば最初に先生への御紹介を煩わした方は海辺の幼稚園の海野園長さん、主任保母の高浜

先生で両先生に御交渉方を御依頼致しました結果、倉橋先生には本連盟主催の講習会に講師たる事を御快諾下さったのが浅からぬ御縁の発端で御座います。爾後毎年三先生お揃いでお越し下さる事が私共連盟の年中行事となり、何れの年も府下公私立幼稚園の方は申すに及ばず近府県の先生方も大挙して受講参加せられるという盛況で従つて本連盟の面目を一新した次第でございます。所が戦局が緊迫致しました十八年には文部省から講習会も禁止され、恒例の之の行事も一時中絶するの余儀なき事になりましたが終戦後の混沌する社会情勢の中に逸早く之の有益な講習会を再会し得ましたのも、全く三先生の本連盟に対する格別の御恩恵と只管感銘致す處で御座います。其後倉橋先生には御健康の事もおありになつて永らく御来阪願えませんでした。今日二十周年に久々で其温顔を拝し得ました事は本懐至極の事と存じます。一同の先生に対する衷情もお汲みと

り下さいますなら幸に存じます。其れに関連して当時の事が想起されますが、如何に幼稚園でも絵で面に困苦を管めたかと云う事は和田先生が仰つた通りで御座いますが、即ち物資の統制からして保育用品、事務用品の不自由さはまだしものこと、破れた窓から吹き込む寒風に幼児の怯える態を見れば、たまらぬ思いを致し榮養失調の元氣のない顔姿を眺めては泣き度い気持ちにかられました。就いては連盟では其等の対策に随分心を砕きあらゆる努力を払われた事で御座います。中でも忘れられない事として、理事長の和田先生が南の東住吉区田辺から遠く北の十三迄、先生自らシャツ一枚で車を引張つて配給物資を受取りにお出でになり、府市各幼稚園に配給の労をお取り下さつた事でも其御苦労は一度や二度では御座いませんでした。又田辺幼稚園長の森先生があのおむづかしい消費組合の事に並々ならぬ御苦労を下さつた事なども忘れられない御苦労で

ございませぬ。其他幼稚園職員の戦時体制に依る日常生活も又容易なものでは御座いませんでした。先程和田先生が繰々お述べになりましたので省きますが、なおも思い出されまはすのは和田先生の許で主任保母として終始忠実にお務めになりました浜岡先生の事でございます。こう

あゝあのお優しい先生かと思ひ出して下さる事と存じます。何時お目に懸りましてもニコニコと優しい態度で良いお母さんと云う感じが致しました。戦時体制下のあの目まぐるしい中で和田先生が園長とし、また理事長として様々のお仕事に忙殺されて居られます。その片腕となつて朝早くから夜遅く迄蔭になり目向になり良くお盡しになりました。先生御出征後は幼稚園の残務整理連盟事務の連絡等万遺漏なき処置をお取りになりました事など、全く先生の御人格しからしむる所と敬服の外御座いませぬ。

(30頁に続く)

倉橋先生を

お迎えして

中西ヒサノ

大阪府私立幼稚園連盟二十周年記念式典が催された際、これに出席された倉橋惣三先生は、式典が終ると京都におもむかれ、京都保育連盟の名のもとに行われた倉橋先生を囲んでの座談会に出席されました。

編集部

「えらいニュースがある」と柳沢先生から突然聞かされた私は、いろ／＼これに返答してみたが、どれも当らなかつた。それ程、倉橋先生の御西下は珍らしく、又予期せぬことであつた。

大阪の私立幼稚園協会の創立二十周年の祝賀式に臨まれる為、御西下になることがわかつたので、この機会に京都へ是非お立寄り願いたいものと思ひ、早速大阪の會長利田先生宅を訪れ、大阪での先生の御予定を承つた。

てお待ち申していた。まわり縁に置かれた椅子に、ドツカと腰かけられた先生は、松越しに西山を眺められて、

「あゝ京都はいゝ、実に静かだ。いつきてもいゝね」と、さも満足

そうであつた。どうも京都の人に魅力を感じておられないが、京都の地をこゝ慕つておられる先生である。又私たちも、この珍客をお迎えするについて何の術も持たないが、京の地がこれを補つてくれる幸を、つく／＼感じた。

「先生のお疲れになることは、この際一切止めてほしい」と最初にフレイベルの山川さんから注告をうけているので、一切慾なプランはやめることにした。

今の京都の先生たちは若い人が多いので殆んど先生を知らない、たゞ幼児教育の誌上を通じて識っているのである。日本幼稚園の生みの親であり、育ての親である先生を、この際是非皆さんに御紹介したいものと思ひ、公私立が一緒になつて京都保育連盟の名のもと

に先生をかこむ座談会をもつことにした。しかし当日四〇〇名と云う大勢の人が集つたので、やむなく講演の形式をとらざるを得なくなつた。

八年ぶりに聴く、なつかしいお声、沢山の子供たちにかこまれた様な幸福そうなお顔、少し言葉はきゝとりにくゝなられたが、ユーモアを入れた、その熱弁ぶりは昔と変りがない。先生を知っている相当年輩の人達は、若かりし日に会場で先生からうけた数々の御講義を思い起し感激を新にされたことである。

幼児教育の重要性を、我々担当者のみがこれを主張してきた。日本の学者は、これに味方してくれず実に冷淡な態度であつた。しかし先生一人が子供の世界に飛込み子供と共に生活し、子供から学びつゝ、私達の指導に當つてこられたのである。

今日幼稚園が学校教育の一環として、学校体系の中に加えられ、しっかりと位置づけを持つこと

のできたのは一に先生の蔭の御盡力によるところ多く、その偉大な業績を忘れてはならない、御引退後も誌上を通して御指導をうける幸福な私達である。

今後、各地方にお出ましいたいご機会も少くなるので、先生の一言一句聞きのがすまいとした。

○子供と共に生きる、よろこびを知る事。

○子供から学び、勉強し、保育者自身が日々成長することが大切である。

○子供の帰ったあとの語らい、反省こそ重要で、明日への幼児の成長の基盤である。

と、話の要旨はこんなことであつた。

終戦後、我国の教育のあり方も一変し民主主義教育に転換した。人格の完成をめざし、個人の尊重自主性、創造性等の涵養に重点をおかれるようになった。小中高はこれが為相当の混乱をみたが、幼

児教育のみ、何か底に安定感をもつて今日まで進んできてまいつたように思う。それは倉橋先生が、幼児教育の本質をしっかりと把握され、力強い信念のもとに私達を指導して下さつたからである。

先生は且て幼児の自発性、総合保育の重要性を叫ばれてきたことを覚えてゐる。

個人の尊重も、自主性も、自発

の尊重がその基盤をなすものであると思う。又今十二の楽しい経験を示されているが、これも以前に先生から、楽しい幼稚園はいかにあるべきか、又会場の指導、総合的な取扱ひの重要性を述べられてきたので今更新しいことには思えない。しかし近時幼児の行動観察が、やかましく叫ばれるようになった、個々の子供を把握することに於て教育ははじまる。認識を新にし、幼児の教育に当らねばならない。

終戦後、はげしい混迷がうづま

く、こうした社会に育つ子供たち、幼稚園は何をなすべきか、世界平和を目ざし、幼稚園を楽しい思い出の場とすると共に、社会に適応できる力と、これを改善してゆく力のある子供に育て、行かねばならぬと思う。

さて講演でお疲れの先生を京情緒豊かな南禅寺の瓢亭に御案内した、古びた田舎風の家である。奥

まつたところは静かな古風な離れ座敷がある。池にうつるボンボリの灯、二貫もあるという白、赤の鯉が、時々背をのぞかせて通つてゆく、尾で水をはじいては静けさをやぶる。

話の中に聞える、かすかな鐘の音、先生は瞳をつむられて耳をかたむけられる。

「あれはどここの鐘の音ですか」

「さあ、どつちから音がしましたえ」

と姐さんは全く感じが無い、全く

幸福な環境にいて鐘の音を味い得ぬ不幸な人である。

「やつぱり来てよかつた、いゝね」とよるこんで下さる。

やがてアンドンの道びきをうけてその家を去つた。こうしたこと

が、いささかでも旅情をお慰めすることができたといふれば幸なことである。

世間では、奥様が余り先生を大切になさりすぎるのでお弱りになるとの説もあるので、この点奥様に反省していただくことにして、近日日再び京の地を訪れ下さるよう、お約束してお別れしたのである。

終りに先生の御健康をお祈り申上げると共に、フレールベルさんの御厚意に対し、厚く御礼申上げます。

(京都市保育会長)

会 談 座

戸倉先生をむかえて

出席者

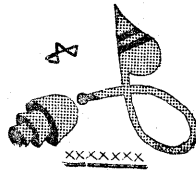
戸倉 哈尔

及川 ふみ

松村 康平

外 お茶の水幼稚園職員一同

昨年フランスで開催されました世界女子体育総会（四十八カ国参加）に日本代表として出席され、またその後長期間にわたって、イタリア、オランダ、スイス、イギリス、フランス、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アメリカ、カナダ、スペイン等、各地を視察されて来られました戸倉ハル先生をこゝにお迎えし、各地での豊富な御経験をお話ししていただきました。



なりましたよ。たまにいなくてもよいですね。皆さんがよくおやりになって、及川先生もほくくでしたよ……と云っておられました。千葉の方はこの卒業生でしょう？

及川 戸倉先生、今日はお帰り早々お忙しいところを頂いて有難うございます。たが、講習でした材料が、運動会などで、好評だったとのことでした。このことを先づ御報告致します。

先生に先づ御報告しなければならぬ事、それは今年の夏の講習がずい分盛んで、受講者千数百人位もあつたでしょう。千葉と高知の方からきいたのですが、

が足りなくて、お叱りをうけた程で、とにかくあの体育館がびっしりでした。それから秋

菊地 あ、Sさんですね。

戸倉 高知の方は、小学校の校長先生をしておられる方でしたが、その幼稚園の若い方達が講習に出て来たが、とても盛んでいきまくられたけれども、いきを吸収するだけでも役立つと言つてましたとのことでした。それは、いゝ悪いでなく、一世紀にわたる伝統

で、のれんが古いからよそとは違いますって
親しい方でしたので云っておきました。

及川 先生のお帰りが、次々と延びたので
大変気が揉めたのですが、やっとお帰りにな
って安心しました。

戸倉 お金がなくなつたのです。欧州に三
ヶ月いましたが、感じたことは、やっぱり学
校のお蔭です。こちらを出る時に、文部省、
外務省から、向うへ行つたらすぐ大使館なり
公使館へ行けと言われてあつたので、行きま
した。すると有難いことには、大抵の国に本
校の卒業生がいるのです。イタリー、オラン
ダ、スイス、イギリス、フランス、ドイツ、
フィンランド、スウェーデン、デンマーク、
ノルウェー、アメリカ、カナダ、スペインの
十三ヶ国に行つたりちで、九ヶ国まで本校の
卒業生、二ヶ国が附属女学校の専攻科の卒業
生がおりました。さすがに明治初年からつゝ
いた学校だと思ひました。私は筆不精ですが
知らず知らず行かなかつたのに、日本の本省か
ら報せて来たというので、待ちうけてくれて
(予定よりも一ヶ月位遅れて行つたのです
が) その車で(デンマークならデンマーク
の車)で案内してくれました。言葉が分らな

いので、本当に助かりました。ところが、大
使館へ行くまでの間、例えば、デンマークか
らフィンランドへ行くというような間が手裏
似、口裏似で大変です。卒業生がいることは
本当に有難いことです。

次に持物のことです。私は初旅ですから
持物が分りませんでした。持物、必ず要るも
の、こういうことを研究して行つた方がいゝ
ということ、そうしたことを私は身を以て味
わいましたから、これから行く人に教えて上
げたいと思つています。それに男と女でも違
いますし、一ヶ国に長いこと行つて来た人と
私のように四ヶ月間の間に、方々の国を歩き
廻る場合とでもちがいます。

私は、日本の夏は知りませんでした。今
年は夏を何べん味つたかわかりません。合着
一枚持つて行きましたが、南洋の方へ行つた
時は暑くて脱ぎたい位で、それから二十日位
でフィンランドへ行くとき、真冬の寒さ、日本
の一月から二、三月の寒さで、冬物を持って
いなかつたのでえるえ上つたのですよ。そう
いうことで、実に旅行の準備が要りますね。

及川 ヨーロッパで幼稚園はどこへ御覧
になりましたか。

戸倉 それが残念なことに、今度参りまし
た主な目的は、フランスで開かれた世界女子
体育総会であつて、その会議は七月十九日か
ら二十六日までで、それに間に合うように行
つたのですが、その前に、オランダのロッテ
ルダムで欧州各国の一回の出場で、その
国を代表する体育の展覧会があり、そこへも
行ってみるよとのことで行つて来てしまし
た。そのために、イタリーなどは、そっくり
見れなかつたのです。欧州では七月一日から
幼稚園から大学まで休みになり、九月二十日
から高校以下の学校がはじまり、十月一日か
ら大学が始まることになっていきます。それで私
が行つた時にはお休になっていまして、九月
二十日から、イギリス、フランスの幼稚園を
見たわけなので、他は施設を廻りました。ア
メリカでは幼稚園から大学までの学校視察で
四十日を費しました。アメリカは腹が立つ程
立派です。私は困窮している欧州の学校の状
態を見たかつたのですが、そういうヨーロッ
パでよく見られたのはイギリスだけで、フラ
ンスは普通ではなかく教育をみせないの
です。大使館から特別の許可を得ないと見られ
ません。ですから、主として見たのは、イギ

リスとアメリカカだけになります。

先づバリの会議についてお話ししましょう。

はじめ、行く前に、どこの人と宿舍が一緒になるかわからないということをききましたので、英語は単語しか分らないし向うへ着くまで心配したのですよ。ところが行ききましたら、十八日の晩八時頃バリに着いたのですが特別のはからいでシティー・ユニバーシティーの会場の中にメース・オブ・ジャパンという薩摩さんの寄附した日本人留学生の寄宿舎があつて、そこは女人禁制だったので、特別に立派な客室をとってくれて、そこに泊めていただきました。その時は嬉しかったですね。よその国の人と一緒に泊ることも考え様によつてはよかつたのですが、その晩は、飛行機の中でさんく御馳走をいただいた後なので、御飯は食はずに寝ました。あくる朝、はじめて明けたバリをみたわけです。八時から会議が始まるので七時までに食事をしようと思つていたのですが、いやに静かなのです。どこで食事をするのか戸迷ううち八時近くになつてしまつたので、もう朝は食べまいと思つて会場に臨んだのです。会場の門に、

参加四十八ヶ国の国旗がずらつと並んでいます。日の丸はどこにあるだろうと探しますと真中から三つ位左に日の丸が立つているのです。それを見ると、涙が出てしようがなかつた。あ、いう所で見ると日の丸の感じはたまらないものです。国旗一つにやたらと涙が出るのです。言葉は母国語でよい。訳してくれますから。私も日本語でした。但し発言の時は母国語でよいのですが、講演をする時には、英・仏いづれかですることになつておりました。

(二)の時松村先生御出席)

その会が出席者四十八ヶ国の代表が全部女ばかりなのです。運営も全部女で、下働きの男の人がポツポツみえていた位で、あとはみんな女なのです。そこが私は羨しかったですよ。ここの講習会も女ばかりですから、その点は遜色ないのですが、何しろ、世界の会議に女ばかりとは大したものだと思います。さて朝、開会をしてお屋になりました。お屋の休は三十分間だったらしいのです。その日はバリに着いた翌日で一日休むかと思つたらしく私の通訳は来ない。私一人でしょう。御飯をどこかで食べようと思つて探したけれ

どないですよ。御飯を探したりプリントを貰つたりしているうちに、三十分経つてしまいました。私は忠実なので急いで席に着きました。いさ、かお腹がすきましたね、晩はうんと食べようと思ひました。会は晩の十時まであるのです。五時頃休憩があるので電車にのつて食へに行つたのですが、どこもやつていない。どこも戸が閉つていてあけてくれないのです。そのうちに又時間になつてしまいました。日本の代表もぐれと言われたりしたら、お腹が空いた以上の不覚と思つて、急いで出席しました。あとで聞いたのですがフランスでは晩御飯は早く七時で、十二時一時が普通なのです。その時間以外の時間はお店の人はゆっくり休息するのです。

それでその晩は、十時に終つてから家に帰つて水を飲んで寝ました。会議中は緊張していたのでお腹がすかなかつたけれども、水を飲んだらお腹がすきました。お金持の欠食とはこんなことかと思つて、ふとんにもぐり込みましたよ。あくる朝、御飯を食べるところはどこかとき、ましたら、なんと会場なんかにはないのです。ずつと奥の方にあるのです。二食分位平げましたわ。

会議はいろいろにわたりましたが、一番主要問題は「女子の体育」という問題で、それに少年、青年、成年と三つに分けて討議し、近代の体操・近代のダンス・女子の陸上競技・運動の分析・オリンピックへの女子の参加についてを議題として総会及分科会で研究しました。私の発表は「日本に於ける女子のリズム教育」でした。日本なんて知らない人がいるのですよ。失礼なこともあるもので。ところが嬉しかったことは、会議中も、方々の国を廻る時も敗戦国の憂き目を味わわなかったことです。

会議の三日目に文部大臣の招待があつて、ブドー酒、シャンペンなどをぬいて皆豪の者で、女でもよくのんでいました。私も飲みたかつたのですが、どうしても飲めない。皆でわい／＼やっていると、ミス・トクラ／＼と聴えるのです。アメリカのエンズワースという人がその会の采配をふるっている、まあ會長でしょう。その人がよんでいるのです。大よろこびでシャンペンを飲んでいる通訳をよんでできくと、文部大臣に日本から来た戸倉に皆の代表で握手してほしいということですが、私でもないことでしたが、私は立つて行き

ました。文部大臣がサツと手を出したので、私もあわて、手を出しました。そしてサンキユーベリマツチと申しました。向うではフランス語で何やら云つてましたが、私は夢中席に帰りました。すると怪我の功名があるもので、通訳が「結構な握手で、」と言うので、きくと、直立不動でよくやつてくれた、よくおじぎをしなかつたという。日本から来た人は、皆おじぎをしなからするのだそうです。私は握手の方法も知らない。向うがギユツと握つたまでのことです。怪我の功名はそんなところにあるんですね。要は日本が一番遠いのです。日本は敗戦で来まいと思つて一人でもやつて来たところからはる／＼出したらしいのです。眼は黒いし、髪は黒いし珍しいでしょう。会でも二日目にはジャパンはどうかときくのです。そしてねぎらつてくれます。

第二日目から各国の代表を数名づつ呼んでフランスの役人と昼食することがあつたが、その初日に私だけをよんだのですよ。私は通訳と二人で行きましたが、ここでは会が終つたら好きな所を見せてやるとか、とてもよく

して下さいました。あとの日は十人位づつ、順々にしたのですが、どうして、最初の日に一人だけをよんだのか、未だに不思議でならないことです。このように何でも日本を先立て、くれて、敗戦国のみじめな感じをフランスの会議では味えませんでした。

殊にドイツでは目がふれると、子供も年寄も私に会釈してくれるのです。レストランの御馳走の時も私の所だけあかりをつけるのですよ。そして真暗になると、やつと皆の所に、旅人を大事にすることがわかりました。

あう人皆が日本人に対してい、感情をもつていゝのは、ドイツだけでしたね。日本に対して特別の感情をもつています。ドイツ人は欺けたことを何とも思つていませんね。ドイツである学生と話をした時に「Zwei」と言つて別れました。若者にまで「クハは」という気があるのです。大変だんな底力があつて大したものだと思います。

ドイツでは第一にベルリン大学へ行つてみました。ベルリン大学はその影もない、秋草が生えてその中に玄関の柱が一本立つているきり。こわれたまゝなのです。ドイツでは第

一が学校の復興で、小学校が全部復活している、中学校が殆んど出来ている。大学は仮校舎でした。ドイツでは向う五年間どんなことがあってもストをしないことが一般の約束になっています。学校復興は、幼稚園と小学校は木造であります。燃料は石炭は一つもたかず、日本のように木をもやしています。第二が軍需工場、重工業、ラジオ、レンズ、機械

工業の部分品を作っています。これは皆輸出されて、国の人はよいものが持てなくても戦前の二倍半の輸出で国をこしらえているのです。皆、困窮に耐えることが今の問題です。第三が住宅を建てることで、戦災者は鳥小屋

のようなどところに住んでいて、鳥小屋のようなどころから紳士が出て来ます。それから官庁を建てることです。しかし出来上つた官庁は素晴らしい。大理石を使つたりして二度建て直さなくてもよいように、立派なものを建てたのです。ベルリンは十軒のうち九軒まで戦災で、一軒しか残っていないという割合で、ボン、ミュヘン等は半分位です。ベルリンの戦災は見なげやわかりませぬ。戦災がそのまゝ、のこっています。ヒトラーの邸跡は、うちの大学の運動場位ですが、粉みぢんめぢや

くにしてありました。ヒトラーが手をひろげ、民衆によびかけている像のあるヒトラーの広場は、こわされなで残っています。あの頃はえらく憎んだのですが、今では「ヒトラー」という気持ちでいるそらで、皆が大事にしています。銅像もそのまゝ、残っています。

先づどこでも(Change money)をするのですが、ドイツに行つたら英語は通じませんよと言われていましたが、本当に一般の人には一向通じません。要所々の言葉だけは通じましたが。チエンジマネーの所でもじくしてしまいましたら、横から

「アナタ、日本人、ハナセマスカ」と声をかける人がいるのです。見ると六十位の女の人手を見てそして通過となる。しばらく行くと又さつととめられる。今度は運転手が長く調べられて見ると、百米位へだてた所で赤い旗を立て、汗みどろで佇んでいる。道を作っているのですね。よそ目もふらず、赤い旗を立て、仕事をしています。こゝを越えたらもう切かなきやならないのですね。仕事をしな

「私実は教育視察に来ました」
「ワタシの兄、中学校の校長ヲシテマス。アナタニイイヨウニシテ上ゲマシヨウ」
「宿モ高クナクテ、親切ナトコロ、紹介シテアゲマシヨウ」
と宿まで紹介してくれました。その人は運転

手をつれて来て、

「コノ人泥棒ジャアリマセン、安心シテ明日カラオノリナサイ」と私に云つてからその通り運転手にも云つたらしく、運転手はころげ廻つて笑っていました。翌日兄が来ました。その人と、私の英語が丁度よいのです。ブロークンであんな愉快なことはありませんでした。いろいろ案内してくれましたが、一番怖かったことは、東と西とにベルリンがはつきり分れていて、向うには行けないことになっている。飛行機で上なら行けるのですが、その境のぎりぐりの所まで自動車で行つたのです。そこまで行くと、赤い毛のついたものをさつと数人の人が差出します。車をとめて先づ私を調べる。立つて見る、坐つてみる、ハンドバックをみせる、自動車の中を見、運転手を見てそして通過となる。しばらく行くと又さつととめられる。今度は運転手が長く調べられて見ると、百米位へだてた所で赤い旗を立て、汗みどろで佇んでいる。道を作っているのですね。よそ目もふらず、赤い旗を立て、仕事をしています。こゝを越えたらもう切かなきやならないのですね。仕事をしな

きや日当をくれないのです。運転手がかもつと見せると言いましたが、私はもう黙日だと断りました。ひやく／＼しましたね。パスポートをとられたりしたら、教育者だから困るという言葉で断りましたよ。ずい分きわどい所まで行ってみて来ました。

もう一つ、ワグナー祭があるのです。ベルリンの西にかゝつていました。フランスにいた時に角々にその広告がかゝつていましたが切符が五千五百円なのです。旅費が少しなのにこれは高すぎると思つたのですが、しかしもう見れんし、見ようと決心してフランスから電話で切符をき、ましたら四、五枚残つてゐるというので、それを買いました。あんなに欺れているのに、ドイツって芸術の国ですね。一万人のワグナーオペラに各国の人が競つた着物で来ているのです。タキシード、イブニングで。私は旅衣で行きました。各国の服装を見に、お弁当持ちで来る人もゐるので。私は始まる十分位に行きました。四時一分前にチャーンといつたらもう誰もゐれないのです。どんな遠くから来た人でも一分おくれたらもう無効です。二時間二十分の演技で「ラインの黄金」というギリシャ神話のもの

でした。黒だけの服装で七人の主役で、色彩的にはそれだけです。しわぶき一つ出来ないう程歌はポリリウムあり演技はすばらしい。音楽は床下から出てきます。音はpからだんだん／＼出て来てそれがmになりfになる。私はあんな音楽で聴いたことありません。その芸というか、音楽にたゞわけもなく泣けました。やたらと涙をとめることが出来ないのです。

その次に、ベートーヴェンの第九をしました。男百人の歌い手、女百人の歌い手、四人の独唱者、オーケストラ百人、男女二百人のコーラスが頭一つ動かさない、手一つ動かさない、直立不動のまゝで歌つてゐるのです。私はそれに感服しましたし、あんな第九をきいた事ありません。オーケストラも大したものです。音楽に酔つて帰つて、帰つて又泣けました。これを感銘の深い人に見せたかったですね。私のような者でさえ、こんなに感激するのですから、音楽のわかる人、オペラのわかる人に見せたら、どんなに感銘深いことだろうかと思ひました。芸術に泣けたのはその時でありました。ワグナー祭の立派なものに驚きました。石炭もない、何も無い、人は

鳥小舎の中から出て行く今のドイツに、あ、いう芸術を持つてゐることが羨しくなりました。

フランスでは電車の中でもキッスしたりするので、甘くて／＼仕様がなないと私は腹を立てたのですが、それはフランスの国民性で、好きと思つたら好きな表現をするのがいゝところ、それを見る方が悪いのですと云われたので、それから見ないで横を向いてゐることにしていましたが、そういうやわらかいフランスからドイツに行つたところ、若い娘さんがお化粧してゐない。日本の昭和二十二、三年頃のきもの、毛のものはありませんし、昔はやつたツンツルテンのベンベルグのきものを着て、どん／＼どん／＼歩いてゐる。フランスでは、ねつて歩いてゐましたが、青年の意気というか、底力がわかりましたね。

ドイツの宿では(十日程いましたが)下で工事をしていましたが、毎朝七時五分前になるとちやんと集つて、七時きつかりにタツと仕事を始めるのです。それから八時開ききまです。大使館できくと、ドイツでは今働け／＼で、敗れてもその後復興すれば前よりもよくなるというので、今度の敗れた事を悲しんで

いない、これを機会に皆働いてもっと盛り上げようというのです。日本では九時が来ないと集らない、四時には帰る、これで日本はいゝのかしらと思ひましたよ。東京だけだつて火事一つあると十軒や二十軒すぐ焼けてしまふような復興でいゝのだからと、つくづく思います。それから戦争を知らない小さい子供に、戦争に敗れたことをどう教えたらいいのか、ドイツではこわされた石や煉瓦がそのまゝ、おいてあるから、小さい子供にも戦争に敗れたということがわかります。向うの人はこわれた石やレンガをおいておくのは、まだ他の仕事をしていて始末出来ないからそのまゝにしているのだと言っています、私は教育の手段として、こわれたものをそのまゝ、おいておくことはいゝと思ひました。日本を発つ時にはこれだけの復興で安心していただけですが、ドイツで思ひました。あの復興で日本はいゝのかしら、再び大手を振って歩けるのはいつの日かと思ひました。危い復興であり危い国民の今の心だと思ひました。理くつを言つて笑われるかもしれませんが、私の本当の感想です。

今度の旅は私独特の感傷で、

——幾山河越えささりゆけば淋しさの

果てなむ国ぞ今日も旅行く——

——「今日も戸倉旅ゆく」——

と一人言して歩きましたが、本当に困つたことは、そんな生易しいことではないということが分りました。この旅で一人で世界を歩いて来たことが、どれだけ私を大きくし、どれだけ私を教育したかわかりません。

困つた話を一つ致しませう。

デンマーク、フィンランド、スウェーデンこの三ヶ国は体育有史以来みるべきものであります。そのデンマークの首都コペンハーゲンは、北歐らしく駅はすばうとしてかくす所なく、そのような大きい駅は見たこともない程です。その駅から地図で見ればそう遠くないブックという有名な学校を探して汽車から下りました。何語も分りませんが、「ブックスクール」と云えば有名で、勿いている人にも自動車の人もすぐ分ります。ところがその駅からは行けないと云うのです。何故かときくと、手で波のような形をするので、地図でよく見ると鳥のようになってるので成程と思つて英文文をしてよくき、まし。た

そして駅の人から丁寧に丁寧に教えて貰つて汽車に乗つたところが、三十五、六才のデンマーク人が「どこに行くのだ」ときくので、「ブックスクール」と答えましたら、「近くまで行くから安心してくれ」と申しました。その人は戦争前横浜に行つたことがあるそうで、簡単な英語は言える人でした。その人はオーレンまで一緒に、丁寧に呉れました。

オーレンで汽車から降りた時は、日が暮れて淋しい停車場です。宿へ行こうとしたが一度きいてみようときくと、その人がどうも連れて行つてくれるらしいのです。デンマーク語なので言葉は全然わかりませんが、一寸した眼の色や空気で感情が分ります。バスに乗れというらしいのでバスに乗ると、乗つているのは女は私一人きりです。それから私をどうして連れて行つたらよいか、バスの中の人皆で相談しているらしいのです。

小一時間乗つて、八時半位につきました。皆で私の荷物を下してくれて、一人の人がかけて行つてくれて、迎えの人が灯りをもつて来てくれました。その間、十分位の間バスの人達が皆私のために待つていてくれたのに、

私はサンキューとも云わず、別れてしまいましたが、ニコくとしておじぎを一つする余裕もなく別れたのが、今もって残念でならないのです。その迎えに来た人と一緒にブックスクールへ行きました。雨は降ってくるし、あかりは見えない。こわくて何かあったら搭闘でもせにやならんとすら思っていました。やがて無事につきました。夏休のことだし、九時前だし誰もいません。ブックは、すでに三年前に亡くなっていて、ブックに四十年間仕えたというおじさんが出て来て、来賓の泊るところがあるからそこへ泊れといってくれました。それから、その室に二人の女の人、一人は体育家、もう一人は女中さんで三人おかれたのですが向うはデンマーク語なので一寸もわからないのです。御飯はどうかときいたらしいのですが、よくわからない。しまいに女中さんが手で御飯をかきこむ真似をしたので「あ、おなかすいた」と日本語で云ったから、表情でわかったらしく、運ぶは、夜の夜中にあらゆる御馳走を持って来てくれて、私はよろこんで皆いたゞきました。向うも万足していました。翌朝起きると素晴らしいよい景色です。

ブック・スクールは私立の大きな学校で、ブックがデンマーク中を十度も廻って寄附を仰いでした学校で、國王も三回みえたことがあります。うちの体育館の二倍位の千人を容す位の体育館が二つもあり、すべてに完備しています。一般人の体操する時間がありますがそこでは七十、八十の老いた人が皆体操をしているのです。まげるところをまげないでもあ、いう体操をする気持に感心致しました。これは困った話の一つです。こゝに行く時の恐しさのように、命を出して行くことが度々ありました。しかし若い人は一人でやるものではないと思えました。でも一人だからこそ親切によくしてくれました。地図をひろげていけば、どこへ行くのかときいてくれる。積極的にしてくれたのは大抵男の人で、女の人はきけば丁寧に教えてくれました。これは一人だから、ちゃんと親切にされたのだと思います。五、六人で行ったのなら、この親切さにはあわないと思えました。たのしいことは苦勞した後のことです。苦勞したことで私をどれだけ大きくしたかわかりません。そういう財産を、うんと私はもって来ました。

及川 この間羽田におむかえにいった時、

戸倉先生はやせて帰って来られるか、肥って帰られるかが皆の気持でしたが、飛行機から堂々とふとつたお姿が見えた時は、胸がたくなりましたよ。

戸倉 ありがとうございます。私もフランスではやせました。けれどもアメリカに渡つてからは同窓生が沢山いて、皆よくしてくれたので、太さはすっかり戻り、日本に帰ってお茶漬さらくしたり、お寿司を食べたり日本の食物を食べて全く元にかえりました。欧州の時はやせました。ルーブル博物館でミレーの晩鐘の原画をみている時です。その前からついて来ているらしい人がいましたが、そこでも後でもそくしているの、いよ／＼後を向いて見ると、後にいた人もこっちを見ます。そして「戸倉さん」というのです。よく見ると黒沢という音楽の人で、若い頃土佐に奉職した時一緒だった人です。若い時はよく知っていたのですが、今は白い髪になってわかりません。向うでも、どうも似ているが、やせて戸倉さんらしくないので、ちがうかなと思っていたら、「うん」という暖かいがあなただったから声をかけたのだとい、ました。やせる位苦勞したのは悪いこ

どではなく、アメリカの様ならい廻しより苦勞が私の心の背景となつてよかつたと思つています。

堀合 フランスで学校をみせないのはどういふわけですか。

戸倉 よく解釈すれば、生徒の心が散ること、先生が飾るということでしょうが、悪い方に解釈すれば、悪いところを見せたくないこと、自分だけ藏しておきたいということだろふと思ひます。フランスは大体芸術的な国で、町角に芸術があり、セーヌ河の様子も向うの建築が合せてあるように見える。芸術の町ではわーっとしています。パリに行つたら帰らん筈ですよ。イギリスは兵隊がいて軍国主義だというのが、旅人の感想です。

菊地 フランスの若い女の方の服装はどうでございますか。矢張り華美ですか。

戸倉 フランスは花のバリというから、どんなかと思つていましたら、皆黒とねづみ色です。ところがすばらしいデザインです。通訳が展覧会があるから行かんかというので見に行つたところ、あそこにもこゝにも日本人がいる。大阪や洋裁の学校から来て、すぐ書いて帰つて宣伝するのです。今年の流行は、

沢山のひだ、後にチャックがついてゐる事、出来るだけ胸を細く見せる事、スカートは朝顔型、頭はドーナツ型です。

フランスの会議の時に面白いことがありました。出席者は体育学校の校長、研究所長とか会長であること、なつていましたので、四十八ヶ国の人は大体そういう人でした。戸倉は校長かときくので、お茶の水女子大学のテ

(19頁より続く)空襲がだん／＼激しくなりまして交通も思うにまかせぬ或日、先生が訪ねて来て下さいました。そして「先生のお顔が見度くなつて参りました。お目に懸れてよかつた。園長の留守中連盟の事はどうぞ宜敷お願い致します。亦元氣でお目に懸りましたようね」と仰有つてお別れ致しました。それが最後にならうとは思ひませんでした。其後の空襲で再びお目に懸る日が参りませんでした。誠に傷わしくお氣の毒な極みに存じます。先に申し上げました海野先生、森先生、箕島先生、村井先生等、既に故人になられ今日此処にお迎え出来ない事は誠に心淋しく存ぜられます。之等先生方の御生前中の御功勞を偲び満腔の謝意を表しますと共に、皆さんと御一緒に謹んで衷心から哀悼の意を捧げ度いと存じ

イーチャーだと云いましたら、文部大臣が早く校長になりなさいと云いました。そういうあどけないことを、あゝ、いう大きい人が云うので面白く思ひました。

及川 どうもいろいろの御話ありがとう御座いました。又この次をたのしみにいたします。

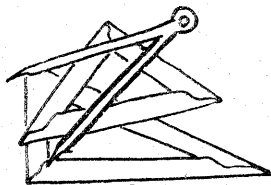
(御茶の水大附属幼稚園園長室にて)

ます。猶此二十年間御一緒にお仕事をさせて頂いて色々お世話になり、連盟の爲に幾多の御苦勞をおかけ致しました功勞者として忘れる事の出来ない先生方が此の中にも沢山御列席戴いて居りました様々の思ひ出が臉に浮んで参りますが、其れは又の時に申残させて頂きます。

時代は今や大転換致しまして幼稚園教育も愈々重大さを加え、私達の職責も益々増大せる事を自覚致しまして、自らの修養に研究に最善の努力を払うべきだと存じます。就ては本連盟の許益々結束を固め、所期の目的達成に邁進致し度いものと存ずる次第で御座います。甚だ整わぬ思ひ出話で御清聴を煩わしました事をお詫び申し上げます。之で失礼させて頂きます。

(大阪府私立幼稚園連盟理事)

知能テストについて



小口 忠彦

1

日本人の欠点の一つとして、「底がない」ということがいわれています。これは、深みがあるということではなくて、正休がつかめないというようないみです。

けっしてありがたいレッテルではないのですが、事実だとすれば、あらためるよりしかたはありません。パリーの一角から流れだされる、いわゆるパリーモードなるもの、本場のフランス人よりはむしろ日本人のほうが勢をあげているくらいらしいのですが、そういう気持ちでいる人がなにかちょっとした異変でもあると、「なあーんだ、あんなもの」といったぐあいにはタンカを切ることもなるのですから、「底がしれない」などというレッテルをはりつけられるのも、理由がないわけではないでしょう。

知能テストについても、だいたいおなじようなことがいえるようにおもいます。

戦後しばらくたってから、雨後のタケノコのようにたくさんテストがつくりだされました。テストと名のつくもの一つのことらず数えあげたら、おびただしい数になって、いささかおどろかされるにちがいありません。むろん、これらのテストのなかには知能テストもふくまれているわけですが、知能テストだけでもよほどの数になるはずはです。

これらの知能テストは、とうとうとして現場へながれこんでいった観がありました。おそらく現場のほうでは、追いたてられるようなかたちで受けいれていたのではなかったでしょうか。知能テストそのものが、まだ十分にできあがっていないのではないのですし、それに「知能」とは、個人が生れつき所有している「可能的能力」のことであって、見ることもさわることもできないのですから、知能テストを十分に消化することはできないはずはです。テストを実施だけはしてみてもそこから出てくる数字がほんとうに個人の知能をしめしているのかどうかにつ

いて、半信半疑以上にでられるはずはないとおもわれます。テストには必ずついている「手引」に書いてある注意どおりにやり、手引のおわりのほうにのっている数字とにらめっこをして、個人別に数字をだしてみると、何やら、自分の気持ちがおちつく、というあたりが実情だったのではないのでしょうか。

せきたてられているようなフニキのうちには知能テストがおこなわれていたのは仕方がなかったとしても、そこには、ぬぐいがたいようなゆきすぎはなかったであろうか。半信半疑のうちにも、テストの結果、でてきた数字に必要な以上の權威をもたせてしまい、場合によると知能指数が五点くらいの差であっても、「Aさんのほうが、Bさんよりも五点だけすぐれている」といったぐあいに、あっさりと人間の評価をしていきらいはなかったでしょう。テストを実施した人、すなわち指導者としての立場にたっている人は、それほどあっさりとは評していなかったとしても、この数字を家庭へ連らく

するときには、思いならずも力をいれすぎて、わが子の知能をおもいあがつて解釈させたり、わが子の能力にひかきせてしまったりするようなヘイガイをあたえてはいなかったでしょうか。わたしは、こうしたヘイガイは目にも見えないところで、そうとう行われてしまったのではないかとおもいます。

けっきよくのところは、知能テストが十分に科学的水準にたっしていないところへもってきて、現場のほうでは多少ともせきたてられてしまったことに原因があるようにおもいますが、現在としては、散る花を追うなかれ、であって、今後おきなりようにすることが大切でしょう。ちょっとわき道にそれますが、テストの出版社にも注意してもらおうのがよいとおもわれます。テストが出来れば、つきには売ることが問題になります。たくさん売るためには、うまいセンデンをしなければならぬ。あまり正直にやると売れゆきにかんけいしますから、くさいところはなるべく上手にフタをして、

センデン文をよんだだけでとびつきたくなるような名文句を工夫することになりましょう。むろん、すべての出版社というのではないのですが、なかなかセンデンの上手な出版社もあるものです。実は何のセンデンでもそうですが、下手なセンデンというものはまず無いとおもってまぢがいないうしから、とくに教育にかんしたセンデンなどのばあいは、割引きして読んでおくほうがよいようにおもいます。

とにかくも知能テストにたいして「過信」だった一面は、おおいがたいようです。ところが、ごく最近になってからは「知能テストなんて何の能もない」という声が、あちこちから出はじめてきました。むろん、金殿的というのではなく、なかには、しんけんにとりと取りくんでいる人たちもいるのですが、それでも「知能テストの寸法もわかった。たいしたものじゃないね」といった気持がだん／＼にひろまってくる傾向がみうけられるようです。もし、そうだとしたら「過

信」から「不信」へ逆転することになり、こんなところからも「底のしれない」人たちがうまれるわけです。けっしてよいことではありません。

知能テストにたいしての健全な態度は「過信」と「不信」とをさけて、あくまでも冷静に、テストを認識することだとおもいます。

2

知能テストに、A式・B式・A式・B式というようなきまぐれな様式があることはすでに誰でもが知っていますし、これらのうちで、幼児用としては、A式とB式とがもっともふつうに用いられているところでも、ひろく知られているところです。

A式の代表的なものとしては、鈴木治太郎氏の「実際の個別的知能測定法」（鈴木ビネー法）と、田中寛一博士の「田中ビネー式知能検査法」とが、しばしばあげられますし、B式の代表的なものとしては、田中博士の「幼児用田中B式知能検査」がしばしばあげられています。牛

島義友博士らの「乳幼児精神発達検査」は、A式のようにつくられています。やはり、B式の代表的なものとしてかぞえるのがよいのではないかとおもわれます。

ここにあげたのは、もっとも代表的なものとして用いられているものだけで、むしろ、この他にもよいテストはあるのですが、フランスのビネーがはじめて知能テストをつくった時からほぼ五〇年、その間、わが国では、主として、田中・牛島というオーソドックスな軸をめぐって大きな発展をしてきたことを、忘れてはならないようにおもわれるのです。

ところで、A式のものでは、コトバをうまくつかひこなすことが非常にたいせつなやくわりをしめることになりますので、ややともすれば、コトバをつかひこなす能力だけが知能としてとりあつかわれるくらいがみられますし、また、逆にB式のものでは、コトバをつかひこなす能力がうきたしていきらないが、ありますので、けっきょくのところ、A式とB

式とを併用するのが無難だということになりましょう。とくに、ちか頃よく用いられている「描画式」の知能テストの場合などは、A式のテストの結果とひきくらべてみる必要があるようにおもわれます。

3

つぎに、B式のテストを中心として、テストをつくる際の目ぼしい点の二、三を解説してみましよう。そうすれば、多少ともテストについての認識のしかたがふかめられはしないかとおもわれます。

ご承知のように、B式のテストは、いくつかの問題群からできていて、テストをうける人は、これらの問題群のどれにも手をつけることになっています。問題群の数は、テストによっていくぶんちがっているのですが、それでも、異同を見分ける能力、置きかえる能力、数をあつからう能力、記憶する能力、推理する能力などは、たいして、とりいれられています。これは、研究の結果、知能はいくつ

かの能力をふくんでいることがあきらかになつてきたからのことで、思いつきで問題をえらんでゐるわけではありませぬ。

これらの問題群をえらぶ際に、つぎのような注意も必要になります。都会とか田舎とかいう地域のぐあいに影さようさされないこと。都会に住んでゐるために有利になつたり、田舎に住んでゐるために有利になつたり、というような問題ではよくないわけです。それから、少しくらい練習しても、その効果があらわれないこと。しかし、これは無理の相談といふもので、練習すれば多少とも成績はよくなつてしまいますから、できるだけそういう効果があらわれないような問題を選ばうことにならうでしょう。それから、また、テストを受ける人たちに興味をもたせるような問題であることもたいせつなことです。とくに、幼児の場合などでは色ずりなどにして、この点に細心の注意をはらつてゐるようです。また、テストの問題は、基礎的のものでないとこまり

ます。つまり、これらの問題をうまく解決できれば、日常生活のあれこれが解決できるのと同じことだというように、応用性のあることがたいせつです。まあ、ざつといつても、このくらの点には注意していなければいけないでしょうからテストをつくるのも決して生やさしいことではありません。

こうして、ひと通りの問題をえらびおわつたら、これを、適用年令にぞくしてゐる人たち二〇〇名くらいに予備実験してみ、問題を検討したり、時間のあらしをきめたり、教示のぐあいをしらべたりします。しかし、予備実験ですからまだとば口です。

いよく本式に被験者をえらぶときには、地域や家庭の職業などを考りよに入れて、各年令群の人たちを五〇〇名前後くらいづつえらぶのがふつうとされてゐます。もし、四才から八才までの子どもに適用するテストをつくるとすれば、二五〇名くらいの被験者をえらぶことになりまふ。もちろん、もっとたくさん

被験者をえらぶこともあるのですが、要は、えらばれた被験者が適令年令にぞくしてゐるすべての人たちに対して代表性をもつてゐるかどうかであつて、下手なえらびかたをすると、いわゆる「見本誤差」が大きくなつて、テストの生命にだげきをあたへることになります。

問題もひと通りできあがり、被験者もえらばれたら、だん／＼と細い点の検討にとりかゝらなければなりません。要点の一つ二つについてのべましよう。

どの問題群についてもいえることですが、どの年令群でも、一〇〇点満点に換算するとしたら、平均して六〇点前後、もっと具体的にいいますと、年令のひくい人たちでは五〇点くらい、年令のたかい人たちでは七〇点くらいとれることがのぞましい。いくら年令がひくいとはいつても、平均して二〇点とか三〇点では問題がむずかしすぎることにありますし、また、最高年令とはいつても、満点にかいようでは問題が甘すぎることになるからです。ふつう、こうした検討を「通

過率」の算出といつて、%でだすことになってきます。ところで、平均点というものはなかくのクセモノで、うっかりしている、とんだしくじりをしてしまふのです。たとえば、平均点が五〇としても、実際にはさまざまの場合があります。全員がそろつて五〇でも平均点は五〇ですが、全員の半分が満点で、のこりの半分が〇点でも、やはり平均点は五〇になるはずで、してみると、平均を算出しただけでは、問題の難易度は十分に知らべられているとはいきけません。

そこで各年令群ごとに、どの問題群についても、得点の分布状態をしらべてみることが必要になります。もし平均点前後の得点をした人員数をもっとも多く、それより得点の高い人員数と、それより得点のひくい人員数とが、しだいに少くなつていて、全体としてみたとき、フジ山やツリガネに似たようなかっこうになつておればよいのですが、そうでないとぐあいかわるいことになります。

この検討がすんだならば、どの問題群

についても、年令群のあいだの平均点の比較をしてみる必要がでてきます。つまり、同じ問題をあたえてあるわけですから、ひくい年令群よりも、たかい年令群のほうが、平均点が高くて当然のはずですから、そのぐあいをしらべてみるわけです。もし、四才から五才、五才から六才、というように年令がふえるにしたがつて平均点が上昇していないようならばあきらかに、ぐあいはわるいことになります。いやでもおうでも、上昇曲線になるようにあらためなければならぬのです。

ざつとついで、こんな調子で、問題を多少あらためたり、また、テスト時間をきめることになります。これだけでも、並たいいていのことではありません。実際についていられる努力は、ばく大なものです。しかも、まじめなテストほど、その努力は増すことになるわけです。

これで、峠はこえているともいえるのですが、実はまだくいくつかの手つづきを經ないといけません。

えらんだ問題を、問題群ごとに見ますと、数がちがつているのがふつうです。

たとえば、1番の問題群には一六の問題がはいつており、4番の問題群には九〇の問題がはいつているというように。

したがつて、いわゆる「粗点」のままではケイサンするとすれば、問題群には、重みの差があることになるわけですが、これは「知能」の本質にそつているやりかたとはいえません。そこで、各問題群の重みをそろえることが必要になってきます。

以上のほかに、問題群のあいだの相関度、各々の問題群とテスト全体とのあいだの相関度、いわゆる「妥当性」や「信頼度」の検討など、もりたくさんの検討がのこされているのですが、ここでは省略したいとおもいます。

以上の解説だけで、わたくしのお話したいところをよみとつていただけるとおもわれるからです。かんたんに知能テストなどといつてみても、いざつくることになると、人知れぬ苦心がはらわれま

す。ややこしい数字ととくんで、まじめに、たんねんに、まとめあげてゆかなければならないのです。とくにまじめにつくられた知能テストにたいしては、そのたりない点を汲みとり、これを育てあげるような気持にならなければならぬのではないでしようか。十分に科学的水準にたっしていないにしても、こうした努力を注ぎこみ、検討に検討をくわえながらさすぎあげた成果のすべてを切りくずすことなど、とうていできることではありません。「テストなんて能もない」などとタンカをきつてみても、まじめなテストならば、びくともしませんし、そういう底のしれない人を、あわれにおもろかもしれません。「不信」をさける必要は、実のところ、こうした点とつながっていることになるのです。

しかし、同時に、以上のところから、「過信」をさける必要もよみとらないといけないとおもいます。つまり、テストを標準化するために必要な手つづきの基礎には、統計がよこたわっており、この

統計は、要するに「平均」をめぐって廻転していることになるのですが、かいつまんでいえば、平均とは「大体」ということにほかなりませんから、テストの結果でくる数字には「大体」というニオイがしみこんでいることになりまし、しかも、生れつきの能力をしらべようとしているにもかかわらず、えらばれる問題にはすでに経験的な色がついていて、地域とか練習とかいったことによつて、多少とも影きよされることを防ぎきれないのです。また、教示のあたえかた、その時の身体のぐあい、その時のフンイキなどによつても、多少の動揺は防げないでしよから、たとえば知能指数ですとどんなにもちくらしいの動揺は承知のうえでない、ゆきすぎにおちいるきけんがあるとおもわれます。

4

幼児のばあいには、つぎの点に着目していることも、必要だとおもわれるのです。

だいたい、知能のテイドと日常生活における活動（もつともふつうの場合は「学業成績」としてあらわれます）のテイドとのあいだには、児童期→青年前期→青年中期→青年後期と、発達段階がすすむにつれて、ミゾができてきます。つまり、小学校の時代ですと、ひじょうに高い相関度があつて、知能指数（あるいは知能偏差値）のたかい者はたいして学業成績もよいのですが、中学時代になりやがて高等学校・大学となるにつれてこの相関度がひくくなつてしまふのです。大きくなるにつれて、気持がフクザツになり、えんりよしたり反抗をしたりするテイドがたかくなりますから、いきおい持ちまえの能力のありつたけが日常生活の活動のうえにハダカのまままでさらけ出されることがぼんやりしてくるわけでしょう。

この関係を、幼児のところまでひきおぼしてくると、幼児は、持ちまえの能力のありつたけを、そのまま日常生活の活動のうえにさらけだしているとおもつても、

私の見た三十九年間の

保育界のあれこれ（福島縣）

玉川喜代子



はじめに

福島県保育界のあれこれを語らうとする時、先ず第一に県保育界の恩人、元郡山幼稚園長故松山政治先生の事をお話ししなければならぬ。

松山先生は明治四十一年に子守教育から更に發展して、郡山幼稚園を創立されると、もう三年目の四十三年には福島県保育会を結成された。当時福島、若松、郡山、喜多方の四施設であつたと思う。生みの親ばかりでなく更に育ての親として、各地各園輪番に当番される場合、凡てを殆ど先生のお力にまゐた。先生は或時機を得て夏休の一ヶ月を、東京鮫ヶ橋の二葉保育園で園児の取扱を實習された。

是は男性としてたつた一人であられたそう。更に大正四年には五人の子女ある夫人いね子先生を、東京保母伝習所

に送り美事卒業の栄冠を得られた。斯くの如く幼児教育への全き精進は鬼神をして泣かしめるものがあつた。先生が又社会教育の面に於て、全国各地の講師となる事二百数十回、更に朝鮮、満洲からまで招聘された。殆ど寸暇もない多忙の身を、既設の幼稚園のよき指導者として、又新設の幼稚園保育所のためあらゆる協力を惜しまれなかつた。従つて熱心に研究を続ける職員は非常に賞讃された。現白河幼稚園の主任教諭石野キヨ先生、福島幼稚園長の木村先生、原之町の安川とよ先生、小名浜の鈴木いせ子先生などよくほめて居られた。私は上京の往復におよして徹宵お話を伺い、御指導を頂くのが何より嬉しかった。そしてよく泊めて頂いた。

そうした熱の人であられる故に、不完全な設備又は不合理な園児の取扱いなどを御覧になると、もう遠慮なくびし

「当事者に忠告されるので、中にはびく／＼したりする者もあるが、然し何といつても親身になってなさる事なので叱られ乍ら嬉しかった。

かくて先生の御指導によつて県保育会は日に日に發展して行った。

「先生の前に先生なく、先生の後に先生なし」

従つて県下の保育者は殆どすべて先生におんぶし、先生にすがつて安心して毎日を過した。所が突如先生が病床の人となられた。一同は皆心より御本復を祈つた。然もこの切なる願いは報われないで大正十四年五月十八日、大木の倒れる如く、大きな／＼足蹟を止めて幽明境を異にせられた。あゝ巨星おちて暗雲暗く、福島県保育界は茫然自失、なす事を知らなかつた。

夫人いね子先生は雄々しく立ち上つて郡山幼稚園長の重職に就かれた。いね子先生は本当に松山先生のよき半身であられた。幼児教育ばかりでなく、社会事業をして婦人会社会教育、引きもきらぬ来訪者、その凡てを温かく迎えられ夫君のまかれた種子をよく育てられた。この夫人あつて松山先生の一大事業はなされたのである。後年御表彰を受けられる事数しれず、更に高松の宮様に拝謁され、そして立派な記念品を下賜された御榮譽は夫君と共に頂かれたものと思ふ。及川先生が「いつもお子様をつれて夏の講習に

はよくお出でになられて、ねえ」となつかしまれ、静岡の林先生をはじめよく長い御経歴の先生方から、いね子先生の御消息を聞かれる故、唯今の御住所をおしらせする。

「郡山市細沼町七四番地」

今御健在でお子様お孫様に囲まれておいでの事を附記する次第である。

松山政治先生は漸く世の中が幼児教育に目覚めて来た姿を、莞爾として地下で土川先生や杉原治助先生等とお話して居られるだろう。

戦前

福島県保育会

福島県保育会は明治四十三年三月十日

前記松山先生の御提唱で結成され、以来唯の一年も休む事なく満三十五年間、戦争たけなわとなるまでずっと続けられた。幼稚園保育所共に伸よく手をたすさえて、全国各地輪番に当番となり実地保育、研究、講習、こんなプランで三日間位、講師は中央部から立派な先生方を招聘した。幼稚園も保育所も丁度七夕様が、一年に一度の逢う瀬を楽しまれるように、一年に一度の逢う日をどんなに楽しんで待ったか、「まあ暫く」「おたっしゃで……」と固く手を握りあつたものだった。そして大正十三年まで会長は松山先生であられたが、御他界後会長として人格者、須賀川幼稚

園長山口金造先生がずっと引続きつとめられた。福島幼稚園の須子とみ子先生は四十年勤続で東都で表彰され、そして退職された。この方も県の立派な指導者だった。

各支部会の中から この外に福島県を大体四支部に分ち、県南、県北、浜通、会津として、この各支部に丁度福島県保育会を小さくしたような研究会が結ばれていた。その中、県南県北を結ぶ中部保育会として、大正八年に発足した会は実に発らつたるものであった。

又我が若松市に於ても大正七年五月から、若松保育研究会を結成し之が実に今日に及び、市内各園は一家族のように、職員の慶弔にまで交情こまやかに隔月に実地保育をして、正会合二百数十回三十六年間、更に私学興隆の使命をもつ本会は眼と眼で話のわかる間柄である。

保育面、それから 大正十年倉橋先生が欧米の視察を終えてお帰りになつてからより以上園児の人格尊重の面が強くと叫ばれ、誘導保育の面に力をそゝいだ。あの人形芝居は特に福島第一幼の木村先生によつて全県下に拡まつた。愈々戦争が始まつて園児の父兄がどん／＼応召されていった。各園はこぞつて慰問袋を送り、又陸病慰問をした。「欲しがりません、勝つまでは」。園児達は出陣ごっこをし、又警戒警報ごっこをし配給ごっこをした。愈々敵襲となつた。真つ先きに相馬の原之町の幼稚園が閉鎖された。

続いて福島郡山等々が或は軍需工場となり、又陸軍病院に変つた。相次ぐ悲報に胸を傷めている中に、我が園にも強制疎開の命令が下つた。八月十日から二十人もの人達が泊りこみで園舎をこわし始めた。お庭の渦巻之台に防空頭巾をかぶつてしがみついた園児達が、「これ丈はこわさないで」と云う意味を叫んだあのいじらしい姿が、今もはっきり私の眼底に焼きついている。

県保育大会の一こま

或夜 たしか大正十三年と思う、須賀川で県保育大会の第一日が終り会員一同やれ／＼とばかり「とらや旅館」の寢床におさまつた。所が寝入ばなに異様なざわめきを感じて眼をすますと「火事だッ」と云う声、ひどい風だ。

「ハッ」として思わず戸を明けたのが悪かつた。火の粉が吹きつけて物凄く近火だ。火を見たら俄にガタ／＼と武者ぶるいが始まつた。紐と云うものはなか／＼しまらないものと云う事は此の時皆が深く経験した。誰か梯子段中段のおどり板の上に、バスケットをひっくりかえして白粉やクリムや何か散らしたらしい。お互に叫びかわし乍らどこをどうやら歩いたのか、とまれ一応女の先生方が一つ所に集まつた。行仁幼稚園長の河井臥竜先生が駆けて来られたので、講師の土川五郎先生の安否を伺つた。「あつちです

「どっちだかち」ともわからないが、とにかく男の先生方はとらや旅館の荷物出しを手伝って居られるらしい。その中のお一人が我々女の先生方の休んだ寢室にあつたとて「これはどなたのですか」とお盆位丸いもさくしたものを出示された。見るとそれはアンコ（昔ひさし髪を結っていたその心で、すき毛でもちゃく丸くしたものだ）だ。一同思はず吹き出した。「こっちは」と云われて見たとたん、場所柄も身分も忘れた爆笑が起つた。爆笑又爆笑、男の先生はうるくされたお腹をよじつてころけて笑つた。そのものは？？？

天気もらすべからず。あなかしこ

今、河井臥竜先生も土川五郎先生も松山政治先生、そして須賀川の当番園長の杉原治助先生……一同を女学校作法室に案内し柏餅にして皆一室にまどろんで翌日いねむりしてお別れした方々、みんな故人になつてしまわれた。

あゝ、

戦 後

終戦後ボツく幼稚園が再開された。

遊戯室なく天井なく下駄ばきで傘さした幼稚園、僅かばかり残された惨めな保育室、そこに我が国は立ち上つた。

公立福島幼稚園は市内各校に附設される事になつて、一

つの幼稚園がバット桜の花の開くように五つの公立が出来上つた。松山先生の郡山幼稚園はついに閉鎖のまゝ結局郡山市内の切なる要望に応えて、お寺やお宮や其の他に一度に三つの幼稚園が建つた。

それと共に世の中の要望と厚生省の指導よろしく、どんくくくくく保育所が出来ていった。之は全国的であつた。そしてその福祉施設のお世話をなされる県庁の事務官永井健次氏によつて、戦後第一回の福島県保育会は二十三年六月飯坂小学校で開催された。当時福島隣保館の中原まさえ先生は正に健在であられた。副島はま先生を講師として、今後の保育の有り方の説明があつた。次で翌年平市で中里たまたま先生の立派な保育、そして附設の福島の各校長先生は園長として出席され、会の運営を指摘された。次で翌年相馬の中村で開催され、更にその翌年は福島で、県の大会、東北大会をかねて行われた。所が何と県庁の指導主事始め指導課の方々六、七人で殆ど主催者の立場で活躍され、県保育会は山口先生を顧問に仰ぎ、第四幼稚園長桑原明先生が果会長並に東北代表に当選された。爾来ずつと桑原会長は目覚ましい活躍を続けて居られる。

戦前「県官の御臨席を頂く事」なんて決議した事と思いくらべ、其の日文部省よりも玉越事務官、又講師として及川先生をお迎え出来た事共考えると全く隔世の感がある。

そして保育所側広瀬喜代子先生より提案されて、県大会はこのまゝの形で行きたい。幼稚園保育所共に仲よく行きたいと云われ、会員一同大賛成であったのに、翌年若松で県大会を開こうとすると、同じような印刷の紙で保育所側から続々と退会届が相次ぐ仕末、が然し我が若松は始終一貫して本会無事終了まで保育所側も挺身された。全国的にも六月は松江市で、幼稚園側の全国大会があり、十月は保育所側丈の大会をされた。

それでいて実際の従事者方は、止むを得ぬ命令に抗し得ない、丁度仲の悪い親と親との間の仲のいゝ子と子の間柄みたいで、時あれば手を取り合つて咽んでいるといった具合。とてもおかしなものに思われる。

そして本年第六回の県の大会は十一月二十四日、石城郡湯本町で開会され、文字通り幼稚園丈の会合となつた。

そして其の名も福島県幼稚園協会と改め会長に福島第四幼稚園長桑原明先生、副会長に公立側から福島第一幼稚園長木村ふさ先生、私立側から不肖玉川となつた次第である。

私幼の場合 私幼は戦後一つの大きな問題にぶつかつた。それは保育所の興隆によつて、保育所には措置費があり、又共同募金が出る。経営は楽だと云うので私幼から保育所にきりかえる園が出る、又同じ私幼でも宗教による経営の方々は信者の献金もあり、又外資の導入もある。

県下五六ヶ所、真に保育料丈を以て経営している幼稚園は文字通り手も足も出ない、さればとてくくと天を仰いで嘆いていたら奇蹟に近い事がおこつた。

それは中央の方々のお骨折りでそして全国の切なる要望に応えられて、私学法が制定された事である。救いの手が差しのべられた。第一回私学審議員として山口金造先生と不肖私が任命された。そして私幼として初の学校法人となつた。年額県より五万円也の助成金を頂ける身分になつた。所が他の幼稚園は如何にして学校法人になるか、そこまで行く条件が沢山ある。その一つくをふみきるものは資金難以外の何物でもない。この事を思ひ時、先ず何といつても団結だ、団結してふみ越えなければならぬ。山口、玉川両人が任期満了の後を受けてお父様の代から白河幼稚園を経営されている寺西宗美先生と、郡山安積幼稚園長宗稔先生が審議員となられ、公立と相ていけいして本年度は認定講習会を開いて下さつた。是は何といつてよいかかわらない程嬉しい話である。

手をつなごう、しっかり手をつなごう、そして幼児教育のために迈进しよう。私は熱涙をふるつてかく呼びかける。尚本会公立幼稚園は十六ヶ所、私立幼稚園は三十六ヶ所ある。三十九年の歴史は中々つきないが、これ位にして御判読を感謝し擲筆する。

(若松幼稚園園長)

「小人の汽車」の作者は語る

「話の理解について」

を読んで



そのあとで

話の理解について考える時、子供達は何を望み、どんなものを喜ぶかということをもっと適確につかみたいと思う。

と、述べられておられ、わたくしは、何を望み、何を喜ぶかという事について作者の立場から小人の汽車を解剖してみるのも、何かの参考になるのではないかと思いました。

中島研六

小人の汽車

本誌五十二巻第十号には、東京学芸大学附属幼稚園の谷口先生が、話の理解についての興味ある報告(4)の中に、わたくしを作った「小人の汽車」を取りあげられて、次のようにかかれてありました。

六月と七月では一ヶ月の生長があるにしても、相当すじが複雑になり、登場人物も多い小人の汽車が、もぐらとお日様よりよくおぼえていた。年長組と年少組の平均点の差は小人の汽車の方が少なかった。これら二つの事実からは画面がその理解をたすけたといえると思う。特に小さい子供達の方が絵があつた方が理解しやすい。

たしかに、谷口先生のいわれるように紙芝居である方が、理解をたすけることは事実であります。

あるいなかに、お爺さんとお婆さんと楽しく暮しておりました。お爺さんはお婆さんのお顔をみると、にこにこ笑います。お婆さんはお爺さんのお顔をみると、にこにこ笑います。ふたりは何時も、にこにこ笑っているのです。

お爺さんは、ことし六十にもなりましたが、からだは丈夫で伺っているのです。そして、雨さえ降らなければ、朝は早く起きて、お婆さんにおにぎりを三つこしらえて貰って、くわをかっいで、はたけへ出かけていきます。

お爺さんは、はたけに着くと、すぐに、仕事にかかります。そして、お昼になると、お婆さんのこしらえてくれたおにぎりを、二つ食べて、残りの一つは、お婆さんにお土産に持ってかえるのです。お婆さんは、毎日、はたけからお土産を持ってかえ

るお爺さんを、楽しくまっています。

夏の或る朝のことです。早くに起きたお爺さんお婆さんは、
にこにこに。

「さあ、お爺さん、おにぎりができましたよ」

「そうか、そうか、ありがとう。それではこれから、はたけへ行つてくるよ。とうなずも大きくなったよ。お婆さんの頭ぐら
いになったよ」

「それはよかったですね。お爺さん、でも、このごろは大変暑
くなったから、からだに気をつけてくださいね。それに、夕立
が時々ありますから、雷のならないうちにおかえりなさいね」

「ああ、かえつてくるとも」

「お爺さん、わたしはね、あの雷の音が聞えると、お爺さんの
かえつてくるまでは、心配で、心配で」

お爺さんは、ふと、いつもお婆さんのにこにこ顔の目の中
に、涙をちらっとみただのです。

「大丈夫、大丈夫向うのお山に入道雲が、にゅうつと出てきた
ら、いそいでかえつてくるからね」

入道雲が、にゅうつと出たら——といった言葉が面白かった
とみえて、お婆さんはにこにこつと笑いました。

「じゃあ、このおにぎりを、腰にさげて、それ、くわをかつい
で、さあ、いってくるよ」

と、いいながら出かけました。

はたけに着いたお爺さんは、かついでいたくわをおろして、
それから、おにぎりを包んだ布呂敷を木の枝に結びつけると、

仍く仕度にかかりました。

「お婆さんの頭ぐらいに大きいと思つていたとうなずも、今日
は、まるで、フットボールみたいに大きくなった。お婆さんも
さぞ、喜んでくれるだろう。さあ、朝のうちに一生懸命に仍く
ことにしよう」

くわをにぎつてお爺さんは、

えんこらさあの、

どっこいさ。

やっこ、どっこい、

どっこいさ。

汗がひたいから、ぼたぼた、ぼたり。それでも、お爺さんは

えんこらさあの、

どっこいさ。

やっこ、どっこい、

どっこいさ。

と、かけ声かけて仍いておりました。

そのうちにお屋になつたので、木の枝から布呂敷包みをほど
き涼しい木のかげに腰をおろし、おにぎりを食べ始めました。

「ああ、おいしいおいしい」

お爺さんが二つのおにぎりを食べ終つた時、楽しい音楽が聞
えてきました。お爺さんは夢の世界にひきこまれていくのでし
よう。こっくり、こっくり、いねむりを始めました。

楽しい音楽は、お爺さんのいるところから少し離れた草むら、
そこには、小さな穴があつて、その、穴の奥から聞えてくるの

です。たぶん、小人達が踊りをおどっているのでしょう。

「さあ、みんな、おどりは止めて外へ出てみよ。」

「そうだね、それがよい、それがよい。」

「ぼくはいやだ。暑いのも。」

「弱虫だなあ、こんなところにばかりいるとからだが弱くなるよ。さぶちゃんは、だから夏やせるんだよ。外へ出てごらん。ね、かんかん、お日様が照っていても大丈夫。緑の葉が、ぼく達を守ってくれるのだよ。」

「だって、おなかですいたのだから。」

「さぶちゃんは、すぐ、おなかですいたっていうんだね。ぼくがおぶっていつてあげるよ。ね、いこうよ。じろちゃんも、しろちゃんも、ごろちゃんも、みんないくだろう。」

「いきたいな。」

「ぼくはハイキングがしたいな。」

「ぼくはキャンプがしたいな。」

「ぼくは水泳がいいな。」

「ハイキングもキャンプも水泳も、こんどの日曜日、ぼくらの汽車のついでとして、今日は裏山へ遊びにいこう。それに、さぶちゃんじゃなければ、そろそろ、おなかですき始めたから。食物を探しながら。」

「さうさと、いこう。」

「さあ、いこう。」

緑色、赤い色、うす紫色、クリーム色の、色とりどりの帽子

をかぶった小人達が、そろそろ、穴の中から出てきました。

お爺さんは、まだ、まだ気持よさそうにねていました。ふと小人のいちろうさんがお爺さんのひざの上をみた時に、布呂敷の上の一つ、おにぎりのあるのが目についたのです。

「じろちゃん、さぶちゃん、しろちゃん、ごろちゃん、お爺さんのひざの上をみてごらん。」

「あれ、なに。」

「おいしいおにぎりだよ。」

「食べたいなあ、食べたいなあ。」

「でも、あれはお爺さんのものだから。」

「食べたいなあ、食べたいなあ。」

「ほっとすると食べ残りかも知れないぞ。」

「食べたいなあ、食べたいなあ。」

「まっておいで。それでは黙って食べてしまおうか。」

いちろうさんは、お爺さんのおにぎりを持ってくると、弟の小人達にわけてやりました。

「おいしいなあ。」

「おいしいなあ。」

「兄さん、おいしいのを食べたので急に元気が出てきたよ。」

「ぼく、おどりとなくなつた。みんなでおどりましょーよ。」

「食べてすぐおどるのは、からだのために悪いから、ここで少し休んでいこう。」

小人達も草むらのかげに腰をおろすと、いつのまにか、ぐっすりねむってしまった。

お爺さんがふと気がついて目をさました時には、まだ三時だというのに、向うの山に入道雲が、もっくり、もっくりと出はじめました。

「どうしたというのだろう。今日に限ってねてしまうなんて。

あれあれ、入道雲が出てきた。お婆さんは心配しているだろう。早くかえるとしよ。あっ！ お土産がなくなってしまう。たしかに一つ残しておいたのに……もしかすると、からすの勘太が食べたのかも知れない」

あまりの大きな声に草むらにねていた小人達は驚いて飛び起きた。

「兄さん、おじいさんはどうしたの？」

「あれ、泣いているよ。きつと、おにぎりを食べたので泣いているのかも知れないよ」

「みんなして逃げようよ」

「それがいい」

「そんなことをしてはいけないよ。ぼくがいつてあやまってくるよ」

小人の兄さんのいちろうさんは、

「お爺さん、なぜ泣いているの？」

「からすの勘太がお婆さんに持って行ってやるおにぎりを」

「あっ、やっぱりおにぎり——あれはね、ぼく達が食べてしまったの。ごめんしてね。そのかわりお爺さんによいものを貸してあげるから、ちよつと、まっついてくださいね」

小人達が草むらのかげにかくれて、みえなくなったと思ったら、そのうちに大ぜいの小人達がぞろぞろと、やってきました。みるとみんなは両方の手におもちゃの汽車を、

えんやらほいの、

えんやらどっこい、

えんやほい、

と、掛け声かけてはこんでいます。

小人の兄さんは、

「ね、お爺さん、この汽車にのってください」

「なんだって、これにのれって？ はっはっはっ……いくらお爺さんでも、こんな小さな汽車にはのれないよ」

「のれるですよ」

「だって、そら、わしのからだはこんなに大きいし、この汽車は、そら、わしのにぎりこぶしぐらいなもの」

「あのね、お爺さんまたぎさえすれば、よいですよ」

「またげばよい？ おかしいね、またげばよいかね」

お爺さんは小人のいうとおりにまたぎました。すると、どうでしょう。お爺さんのからだはだんだん小さくなって、いつのまにか汽車の中のものになっているではありませんか。

ぼー

がたこん、がたこん、

しゅっ、しゅっ、しゅっ、

「あっ、電信柱が走っていく……あっ、家が……あっ、森も……」

がたこん、がたこん、

しゅっ、しゅっ、しゅっ、

「早いなあ、山の上に……あっ、雲の上に……」

雲の上では雷のお父さんが目をさまして、布団からはね起きたところですよ。

「もう、そろそろ雨をふらす雲が出てきたようだし、それに、

夕方になりかけたことだから、人達を驚ろかしてやるかな。ご

ろ吉、太鼓を早く出せ。そして、そのばちをもって腹にぐっと

力を入れて、たたけ、たたけ！」

ごろ、ごろ、ごろ、

夢中になってたたいいた時、

ぼー

がたこん、がたこん、

しゅっ、しゅっ、しゅっ、

と、いきおいよく走っていった小人の汽車に驚いた雷は、雲

の上から大きな声をたてながら落ちてしまいました。

お爺さんはおうちにおえると、お婆さんにおにぎりのお土産

のかわりに、小人の汽車ののっていつて雷を落してしまったお

話を、にこにこ顔で話してあげました。

お婆さんは、面白そうににこにこ顔でできていました。

この童話は、わたくしの長男が雷が嫌いであったので、なんとかしてその恐怖心を取り去ってやりたいと思っていた矢先、ある夕方のこと、強い雷雨に驚いてかやの中に駆け込み布団の

上に横になった時、ひよっこり浮びあがって出来たもの、思いがけなくもその話をしてから雷をこわがらなくなりました。

それは今から十六、七年前のことですが、その当時AK放送局に於ては童話の新人を求めており、わたくしもこの童話の研究をはじめて十五、六年程たったこととて、自分の話術を批判してもらうには絶好の機会と思ひこの企てに應じてみました。

会場は東京交詢社の建物内、試験委員は童話作家としての浜田広介先生、実演家としては安倍季雄先生、児童心理の方面からは青木誠四郎博士の方々でした。全国から集る童話の新人七十五名の中から三名選ばれ、その一人としてわたくしもその仲間に加えられ、特にこの作品は別扱いにされて「子供と家庭の夕」という豪華版に取り上げられて全国仲継という光榮に浴したのであります。

戦後児童文化の勃興により、この作品は浜田広介先生の童話集の中にとり入れられて出版され、更に国民画劇の青木緑園氏によって脚色されて、文部省並に更生省のすいせんとなったもの、思えばなんとめぐまれたる「小人の汽車」よ。

さて、この童話が世の人達に認められ、また子供達から喜ばれるとするならば、どこにその素因があるのでしょうか。最近の心理学では基本的欲求ということをいっております。基本的なものといってもいろいろありますよが、わたくしは最も基本的なものとして「たべる」「あばれる」「ねむる」というこの三つを数えたいと思います。

たべるというのを、子供は強く望んでおります。雨の降る

中、ビニールの布呂敷をかぶって白衣観音のおわす小高い山へ旅行に來る生徒達と出会うことがあります。そうした中でさえ子供達のひとみの奥に喜びかがやきのあるのは恐らくおいしいたべものを持っているからだと思っています。

次に、あばれるということについて、わたくしはかつて路傍の石の映画をみたことを思い起しました。学校帰りの大勢の子供達が駆けていくと、ふみきりのところで遮断機がおりる。その時、汽車の通りすぎていくまで断足をづづけている場面を。子供達のいかに活動的であるかを表現した監督の卓抜さに驚きました。

寝る子は育つといえます。幼児にとつてねむるということは活動的であればある程、それにとつて強く欲求されるものといえましょう。

そうだとすれば、「たべる」「あばれる」「ねむる」ということが童話の中の人物の行動として描写される時、作中の人物に同化して、この願望が満たされるところに自然と愉悅を感じるのはないでしょうか。童話の面白さの秘密はそこにかくされていると申しましょう。

小人の汽車の中には、にぎりめしが出ておりますし、お爺さんがねている場面がありますし、それに、また雷のあばれていたり、汽車が疾走しておりますから、どうやら基本的の三つの要求がひそんでいることになりました。

そこで、わたくしは日本五大童話を捉えて、調べてみました。桃太郎の中には、きびだんごがあります。もっとも、桃太

郎の名前それ自身に食欲的な魅力があります。舌切雀にはのりが、猿蟹合戦には柿とにぎりめしと粟というように、それぞれ、食物が取材されています。あばれることも、鬼が島の活劇、雀おどり、猿蟹の合戦というように動きのある場面がそれぞれに展開されているのです。だがねむるということになると五つのうち五つともみつかりません。この要求をわすれたように取り上げていないのはどういうわけでしょう。おそらく、五大童話の作者達も太平の夢を十分に味っていたために、ねむるということの大切なものを忘れたことかと思われれます。

何を望むかということを基本的欲求の立場から小人の汽車を考え、更に五大童話にふれてみましたが、実は、他の立場からも、何を喜ぶかが、いくつも考えられるであります。

地上、地下、天上というように場面の變化と小人と雷のコントラストの構成論や、巨小（小人）巨大（雷）の鼓張を喜ぶ心理論や、小（小人の汽車）が大（雷）を征服する即ち抑圧を排除するところに快感を抱く精神分析論といったように、しかし、これらは、いいふるされているので止めることにいたします。

わたくしは、童話がしたいばかりに去年四月から幼稚園へ参りました。毎日、童話をしておりました。今年の七月からは、もう一つの幼稚園を兼務することになったので、尙、また、童話が出来るようになまじりました。その間に、はつきりと、考えられたのが以上の基本的欲求ということでありました。

（高崎幼稚園長同第二幼稚園長）

フリール館の

29年度 新學期用品


☆☆☆☆☆☆ ☆ 半世紀のけんさんと漸新な企画、良心的な製品で御好評を頂いて参りましたフリール館の保育用品。 ☆☆☆☆☆☆ ☆ 29年度新学期用品も次の通り製作完成を見るにいたりました。優良廉価をモットーといたし、幼児教育の充実と発展の一助ともなることを念願といたして ☆☆☆☆☆☆ ☆ おります。

◎ 御用命は貴園もよりの本社代理店又は本社へ直接御申しつけ願います。

保 育 料 袋 2.50	綴 込 表 紙 B5判、前記用紙の題字レットを奉仕いたしました。 50.00	卒 園 台 帳 B5判 (用紙) 2.00	身 体 検 査 表 B5判 (用紙) 2.00	出 席 簿 B5判 (用紙) 2.00	園 籍 簿 B5判 (用紙) 2.00	保 育 日 誌 (用紙) A・B B5判(A)は従来のもので、(B)は新案の様式です。 2.00	幼 児 指 導 要 録 (用紙) B5判 4頁 文部省制定様式のもの。 5.00
------------------------	---	------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	--	---

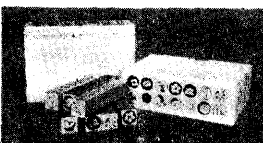
特に紙質を吟味しました。 図柄更新。

出席カード
 A5判、キングダーブックに御執筆頂いている黒崎・林・安野・中村・立野・木俣・諸先生方の美しい絵柄です。



35.00

出席コム印
 (1組)
 四個ボール箱入
 図柄更新。



200.00

つうえんブック
 A6判
 図柄更新。
 園のたより
 内容を改訂左開きに改め、図柄更新。

15.00

15.00

出席カード用貼紙

は
さ
み
1箱10人分。美しいシールにしました。
従来のものを更に吟味いたしました。

200.00

35.00

た。

木園スタ
木園スタ
木園スタ
児募集
児募集
児募集

(C) (B) (A)

25.00 25.00 25.00



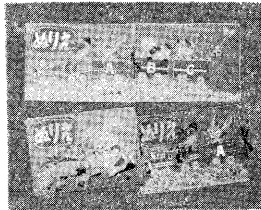
(A)・(B)・(C)
共にA2判
多色刷新学
期御入園の
よろこびを
たゝえるよ
うな楽しく
美しい図柄
といたしま
した。

大きさはい
ずれも約
1.5尺×2尺
幼稚園・保
育所共用。



ぬ
り
ぬ
り
え
え

(初級)
(上級)
35.00 35.00



上級・初級共B
5判 16枚 初級
は、描画発達段階
を考慮し、上級
は、幼児の創造性
を特に考慮して企
画いたしました。

自由画帳 (A)

A4判 16枚
左開き、図柄更新。

35.00

自由画帳 (B)

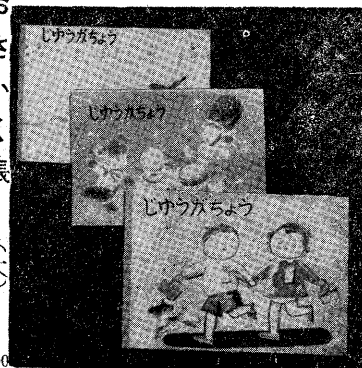
B5判 20枚
左開き、図柄更新。

30.00

自由画帳 (C)

B5判 26枚 左開き、実用向に
製作いたしました。

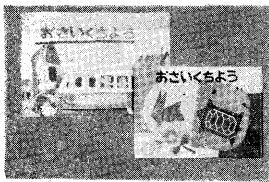
25.00



おさいく帳 (大)
おさいく帳 (小)

30.00 35.00

(大)はA4判、(小)
はB5判、大・小共
鼠色、10枚、黒2枚、
図柄更新。



まんでんくれよん (12色) 60.00
まんでんくれよん (10色) 60.00
まんでんくれよん (8色) 40.00

文部省選定標準色準拠。
 日本工業規格品、色彩品質共に十分検討してあります。

お道具箱 (木製) 60.00

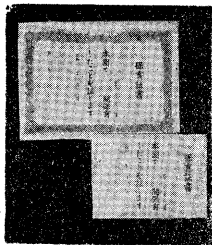
ニス塗、材料を特に吟味いたしました。

お道具箱 (紙製) 35.00

厚ボール製、角止金つき、手堅く堅牢にできています。

保育証書 (大) 7.00
保育証書 (小) 5.00

(大)はB4判
 図柄更新、紙質を吟味しました。
 (小)はB5判
 紙質吟味。



えあそび 40.00

B5判 16枚 幼児の表現慾をみたすよう及川ふみ先生考案。

楽しいお仕事 (1)
楽しいお仕事 (2)

1・2共B5判 16枚
 及川ふみ先生考案の作品集。



組別名札 (1枚) 2.00

桜型、赤・黄・緑・水・藤・桃・白・青・橙の9色

折紙 (特製5寸) 50.00

折紙 (特製4寸) 40.00

20色、文部省選定標準色準拠。上質紙使用、各色100枚1束。

紙 (並製5寸) 38.00

紙 (並製4寸) 28.00

20色、文部省選定標準色準拠。各色100枚1束。

フレーベル館の鉄製保育用品 (一部)

二人乗ブランコ	¥ 14,500	ジャングルジム	¥ 37,000
鉄製椅子ブランコ	¥ 28,000	波動回転塔	¥ 23,000
四人乗スカイスクーター	¥ 25,000		
太鼓橋	¥ 14,500	シングルキャッスルジム (1塔式)	¥ 18,800
中型滑台	¥ 29,000		
メリーゴウラウンド	¥ 28,000	ダブルキャッスルジム (2塔式)	¥ 31,500
回転シーソー	¥ 14,000	{ 1塔式を2塔式に増設する場合 ¥ 14,500 { 2塔式を4塔式に増設する場合 ¥ 28,800	
遊動木	¥ 37,000		

○倉橋惣三先生が久々で関西を訪はれたことは、保育界にとつて有意義なことであつた。夜おそくまでホテルの部屋に何十年ぶりで先生を囲んで時の過ぎるのも知らずに談笑して過ぎた一週間は、先生にとつても、又多くの方々にとつても懐かしいものだったに違いない。

○日本に幼稚園が生れてから、七十数年目の春を迎えるに當つて、私共の幼稚園の足もとをしつかりとみつめて、希望と共に計画を練ろう。

○幼稚園の三月は忙しい。三月は年の暮である。手しおにかけて来た子供達を送り出して、感傷に浸る間もなく来るべき年度の計画に追われる。新入園児を迎える抱負を各地の幼稚園の逞ましい息吹の中に見ることの出来るのは喜ばしい。

○童話の世界は子供の世界ある。子供

編集後記

と共に何気なく過す日常の生活の中からもつと童話が生れてこないものだらうか。子供を愛する先生方の中から童話が寄せられることを期待する。

○数年病床に就かれながら、幼稚園教育のために盡力された、和田実先生が、一月十四日、急に亡くなられた。本誌二月号に寄せられた、先生の幼稚園各方面に、批判を求められた御意見は、読者の記憶にも新しいことであらう。先生は幼稚園界にあつて数十年、実に、純粹に幼稚園教育のために盡くされた方である。功利主義の波が幼稚園の中にまで押しよせる時も、時には頑固な程に、純粹に身説を主張し、純粹な幼稚園教育を保持されようとし、ために誤解を招くことも屢々だつたととき。先生の幼稚園教育に対する純な思ひは、いつまでも幼児教育の上に光り輝やくであらう。

幼児の教育 第五三巻 第三号

定価金五十円

昭和二十九年二月二十五日印刷

昭和二十九年三月一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三
発行者

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

発売所 東京都千代田区神田小川町二ノ五
株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いします。